

平成 29 年度  
武蔵野市男女平等に関する意識調査  
報告書 概要版

平成 30 年 3 月

武蔵野市

# 目 次

## I. 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書のみかた	1

## II. 調査結果

1. 回答者のプロフィール	2
2. 日頃の生活について	5
3. 仕事とワーク・ライフ・バランスについて	16
4. セクシュアル・マイノリティについて	19
5. 男女平等意識について	20
6. 男女間の暴力について	26
7. 市の施策について	34

## I. 調査概要

### 1. 調査の目的

武蔵野市では「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」に基づき、男女平等の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図り、男女平等社会の実現を目指すため、平成30年度末を目途に「武蔵野市第四次男女平等推進計画」の策定を予定している。その基礎資料とするため、この調査を実施した。

### 2. 調査の設計

- (1) 調査対象 武蔵野市内在住の満18歳以上の市民
- (2) 対象者数 1,500人
- (3) 抽出方法 無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送による無記名アンケート（郵送での調査票返送に加え、ウェブ調査画面にアクセスし回答する手段を用意）
- (5) 調査期間 平成29年10月2日（調査票発送）～16日（返送締切）
- (6) 調査項目 質問項目27問＋プロフィール6問

### 3. 回収結果

- (1) 対象者数 1,500人
- (2) 有効回収数 534人（女性：270人、男性：240人、その他：2人、性別無回答：22人）
- (3) 有効回収率 35.6%

### 4. 報告書のみかた

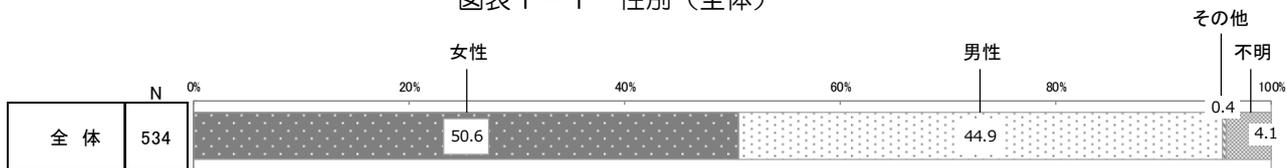
- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（%）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- (2) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- (3) 性別、年代別などは、無回答があるため、合計が全体と一致しない。なお、性別が「その他」の回答者はごく少数であることから全体に含め、グラフでの表記はしていない。
- (4) 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計は100%を超えることがある。
- (5) 年代の表記は、「18～19歳」を10代、「20～24歳」「25～29歳」を20代、「30～34歳」「35～39歳」を30代、「40～44歳」「45～49歳」を40代、「50～54歳」「55～59歳」を50代、「60～64歳」「65～69歳」を60代、「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」を70代以上としている。
- (6) 集計表は、全体を10ポイント以上上回るものに 、10ポイント以上下回るものに  の網かけをしている。
- (7) 集計の母数が10以下の数値になっているものについては、統計上の優位性が低いため、分析には利用していない。

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 回答者のプロフィール

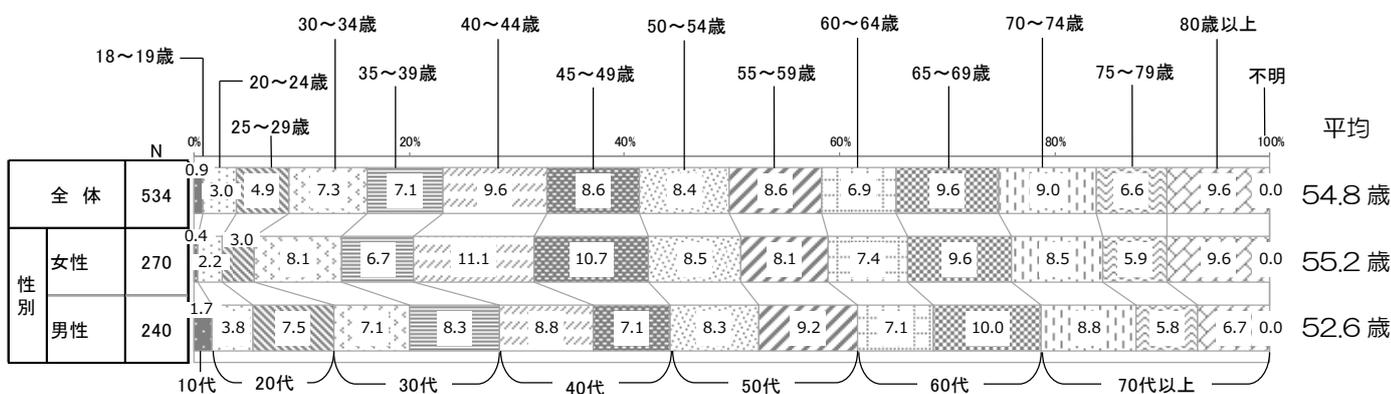
#### 1-1 性別 (F1)

図表1-1 性別 (全体)



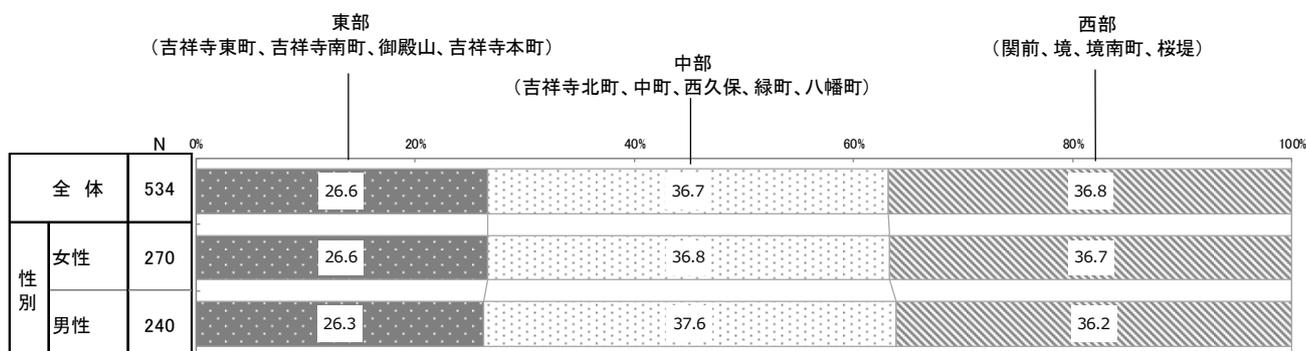
#### 1-2 年齢 (F2)

図表1-2 年齢 (全体、性別)



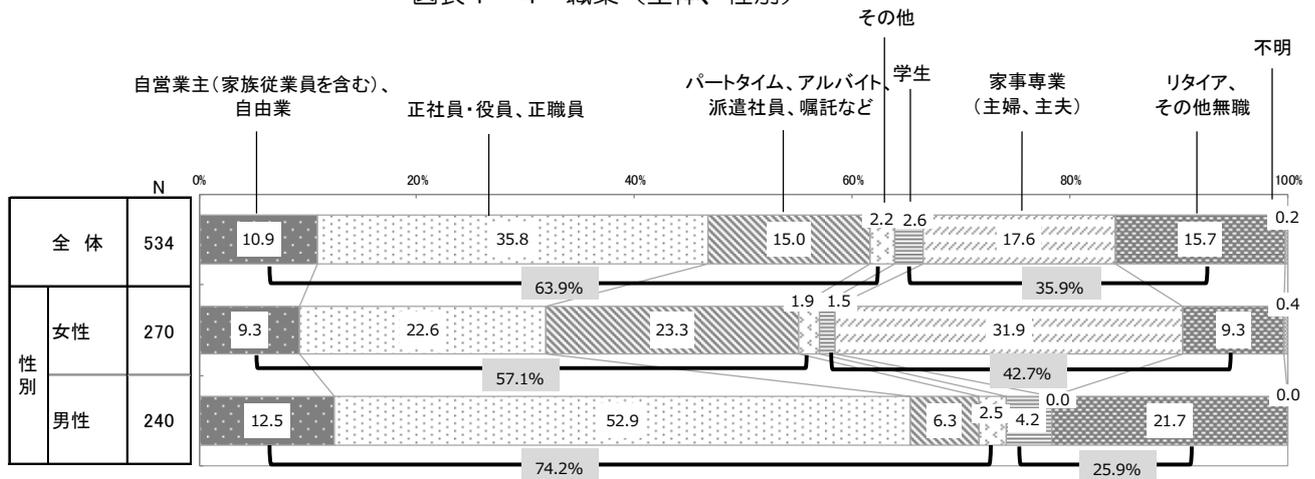
#### 1-3 居住地域 (F3)

図表1-3 居住地域 (全体、性別)



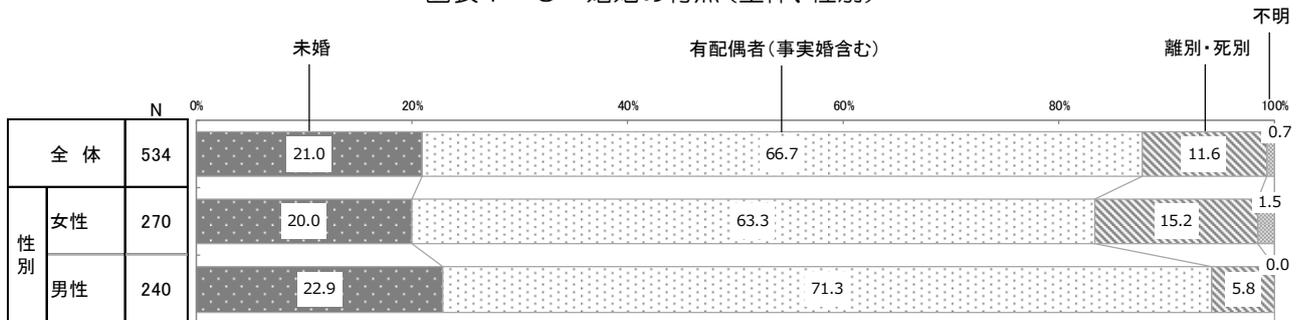
1-4 職業 (F4)

図表1-4 職業 (全体、性別)



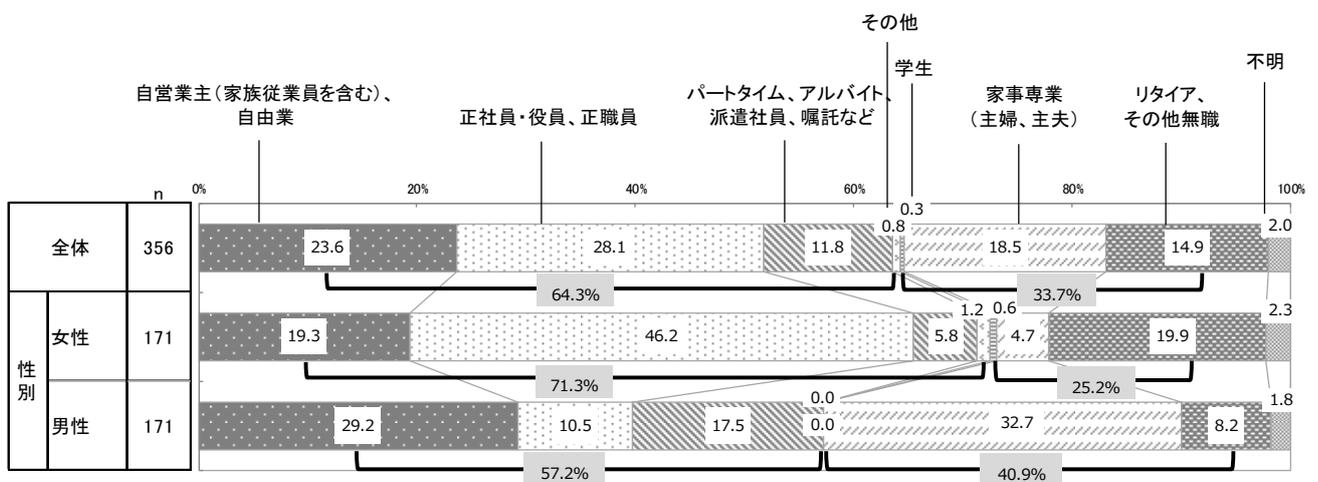
1-5 未既婚 (F5)

図表1-5 婚姻の有無 (全体、性別)



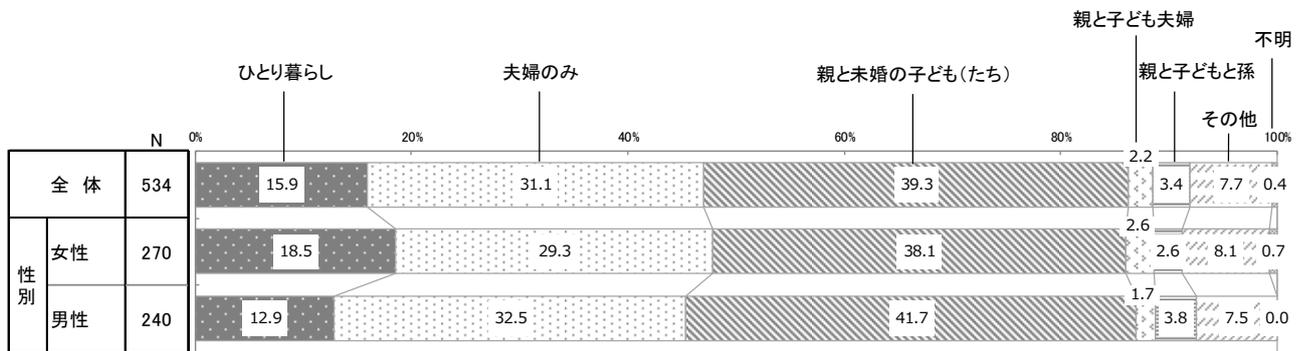
1-5-1 配偶者の職業 (F5-1)

図表1-5-1 配偶者の職業 (全体、性別)



1-6 世帯構成 (F6)

図表1-6 世帯構成 (全体、性別)



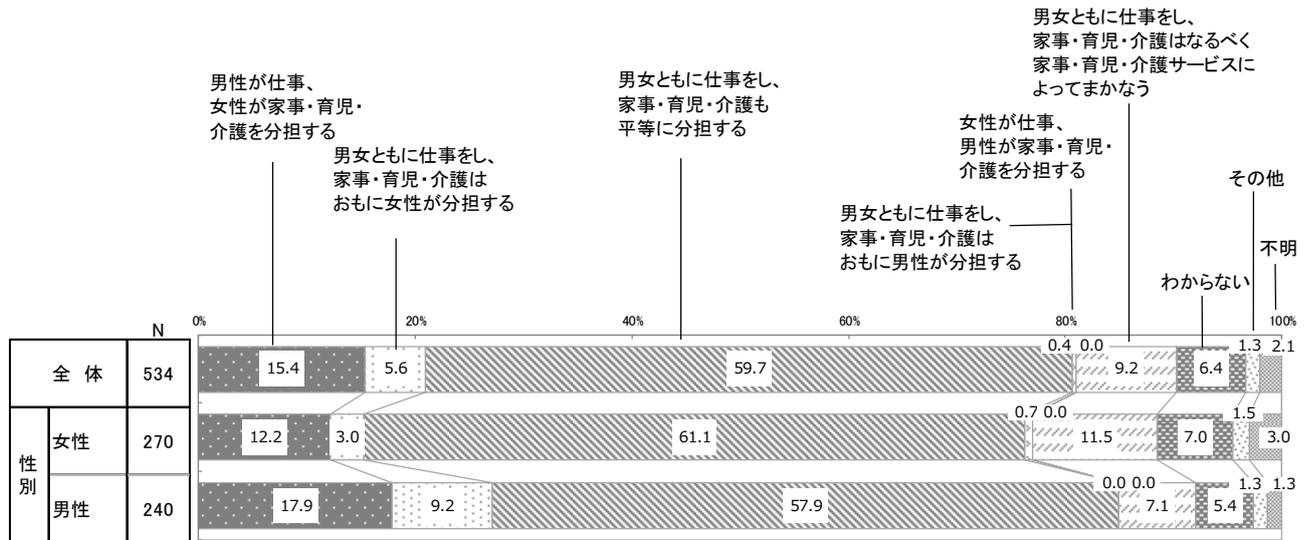
2. 日頃の生活について

問 1

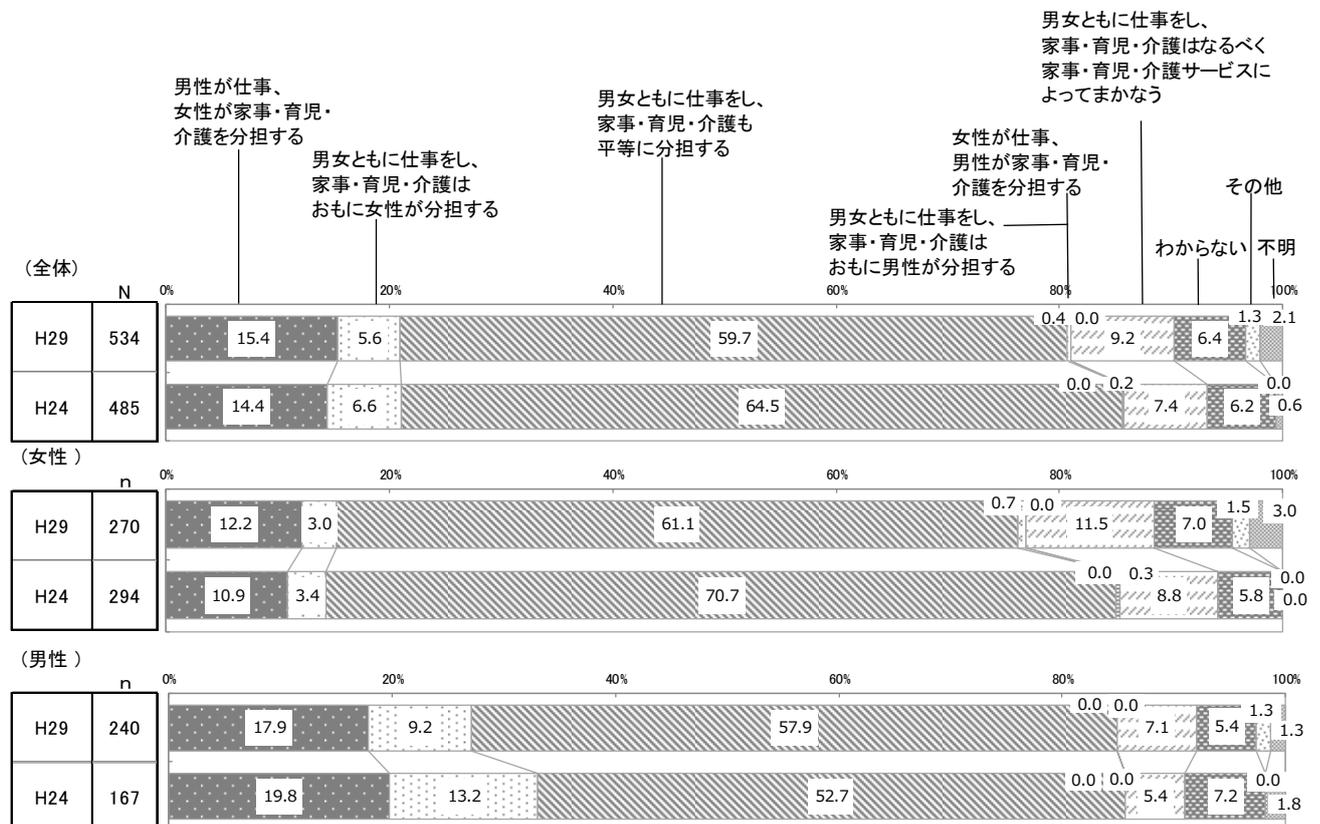
あなたの理想として、男女の仕事と家事・育児・介護の役割は、この中のどれがもっとも望ましいと思いますか。(〇は1つ)

理想では、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」は女性が61.1%、男性が57.9%で、男性は前回（平成24年）調査と比べ5.2%上昇している。

図表一問1—① 理想の役割分担（性別役割分担）（全体、性別）



図表一問1—② 理想の役割分担（性別役割分担）（全体、性別）【経年比較】

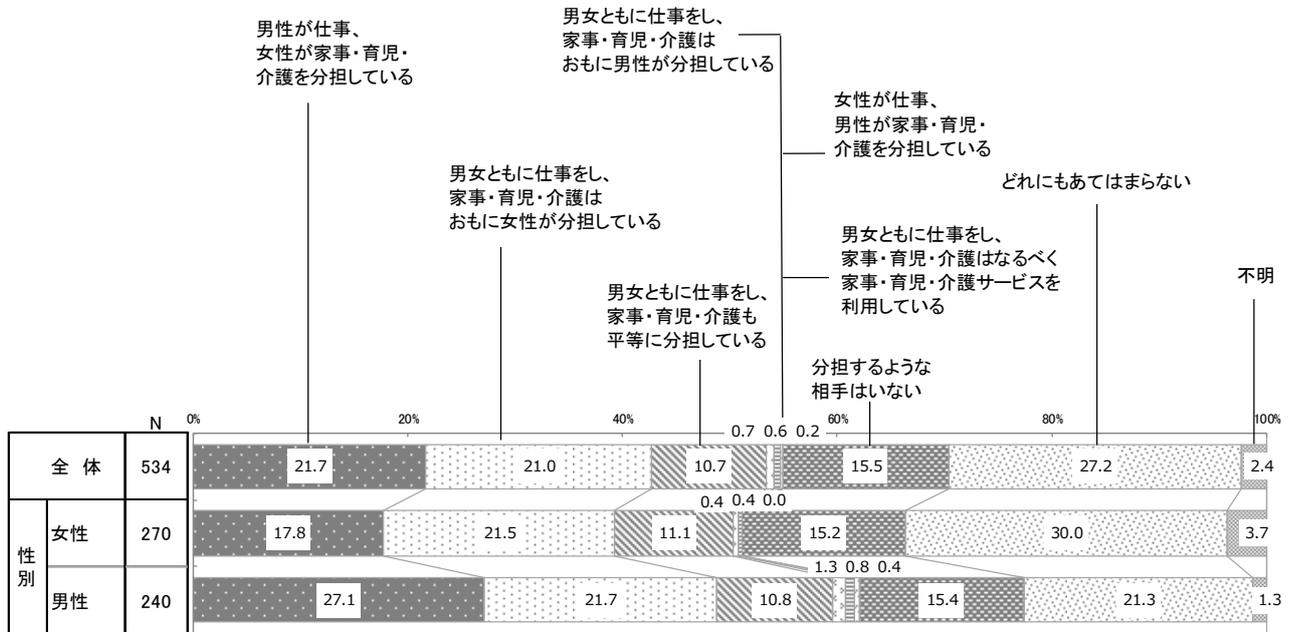


問 2

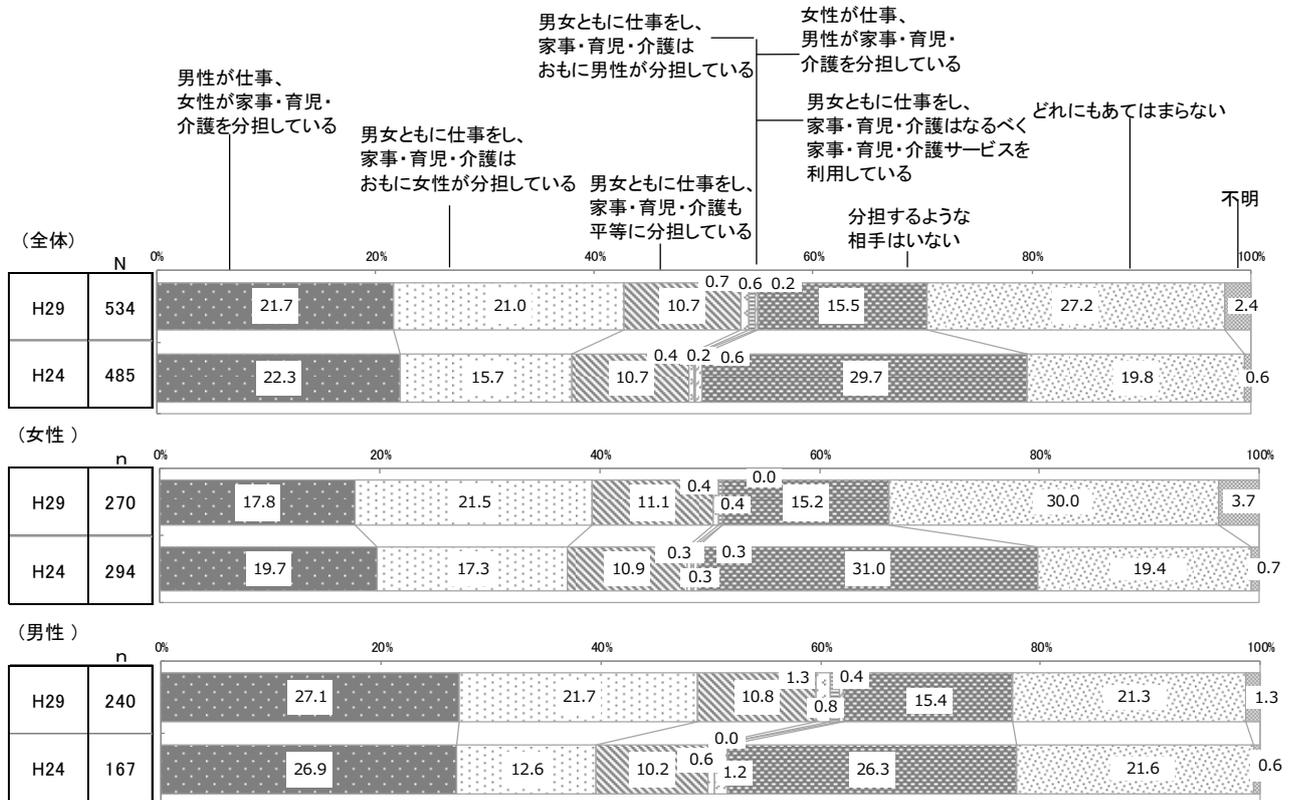
それでは、あなたのご家庭では、現在、仕事と家事・育児・介護の役割分担をどのようにしていますか。(○は1つ)

現実には「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担している」は男女ともに10%台。

図表一問2—① 現実の役割分担（性別役割分担）（全体、性別）



図表一問2—② 現実の役割分担（性別役割分担）（全体、性別）【経年比較】

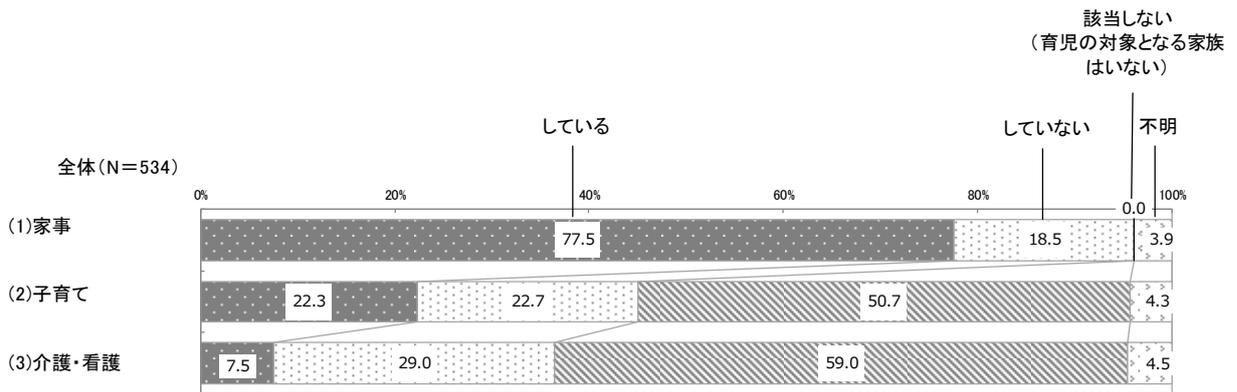


問 3

あなたは、現在、日常生活において、家事や育児、介護・看護をしていますか。（それぞれについて○は1つ）  
また、している場合は、どの程度時間をかけているかを合わせてお答えください。

家事の実施率は、女性 86.7%に対して男性 66.3%。育児は女性 26.3%に対して男性 20.0%。介護・看護は女性 10.0%に対して男性 4.6%。家事にかかる時間は平日・休日ともに男性は女性の半分以下だが、育児・介護にかかる時間は、休日では男女の時間数は近い。

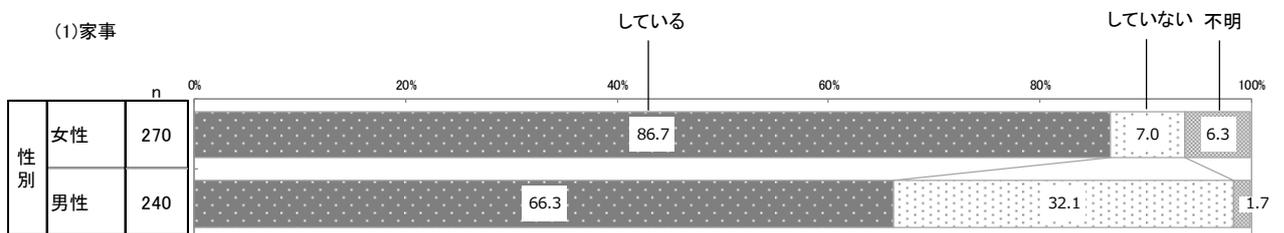
図表一問3—① 日常生活における家事、育児、介護などの従事（全体）



【家事】（食事の管理、住まいの手入れ・整理、衣類の手入れ、園芸など）

《実施率》

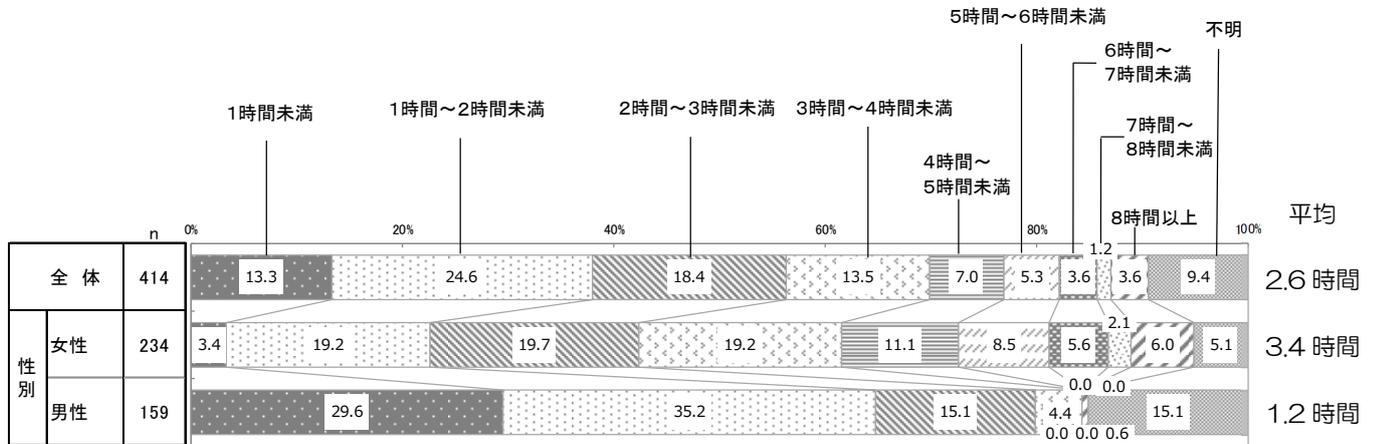
図表一問3—② 日常生活における家事の従事（性別）



《家事にかかる時間》

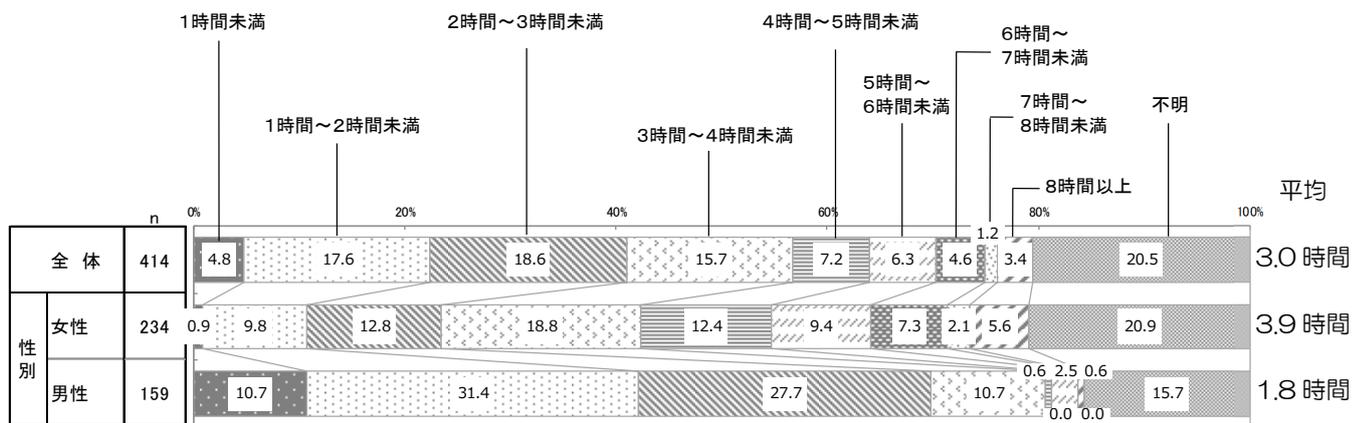
[平日]

図表一問3-③ 家事にかかる平均時間[平日] (全体、性別)



[休日]

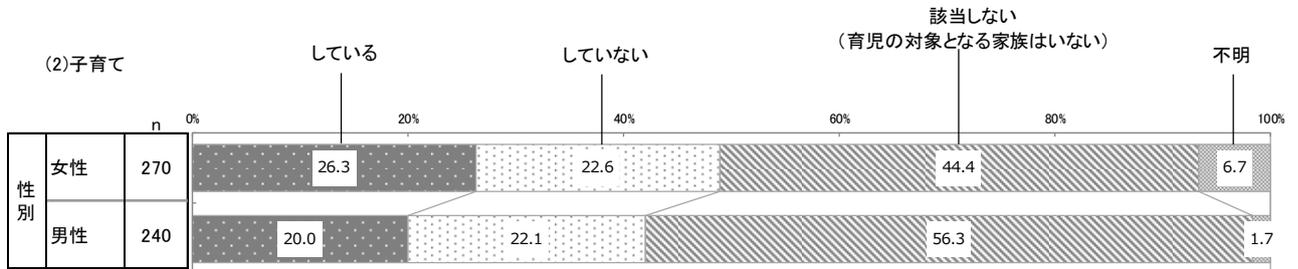
図表一問3-④ 家事にかかる平均時間[休日] (全体、性別)



【子育て】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

《実施率》

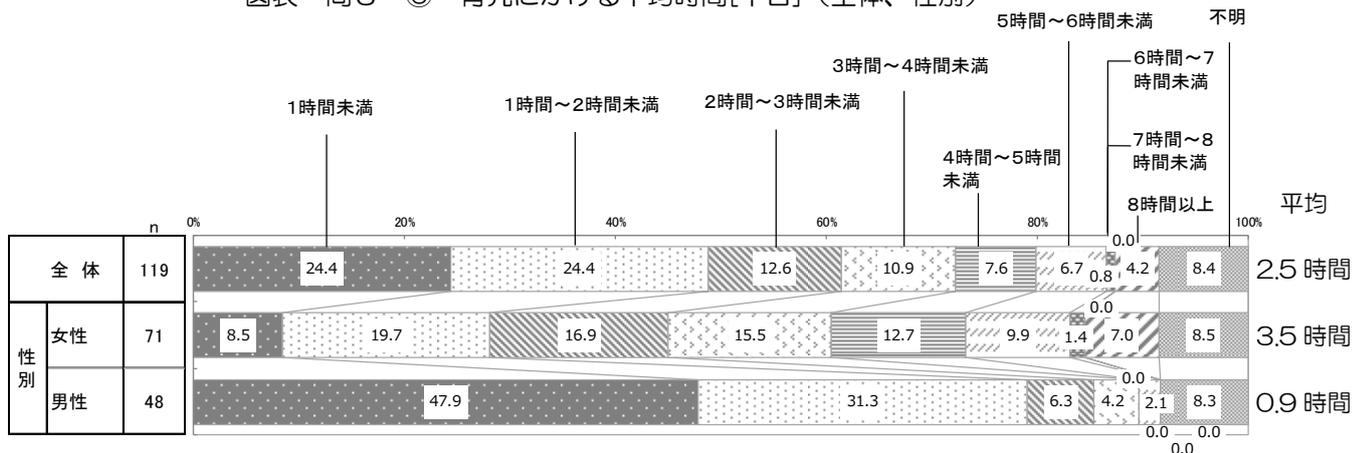
図表一問3-⑤ 日常生活における育児の従事（性別）



《子育てにかける時間》

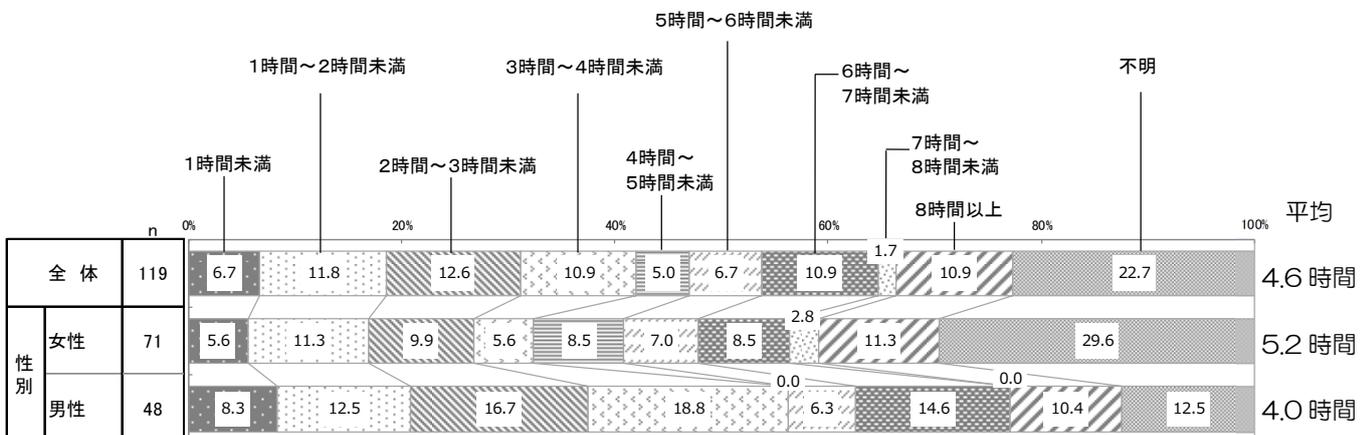
[平日]

図表一問3-⑥ 育児にかかる平均時間[平日]（全体、性別）



[休日]

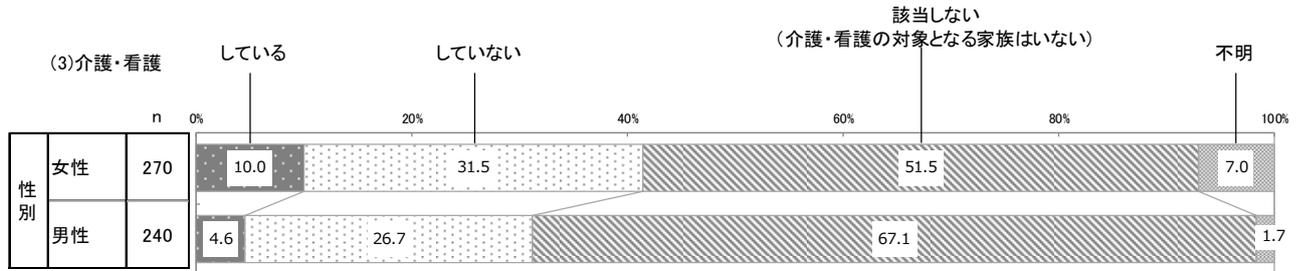
図表一問3-⑦ 育児にかかる平均時間[休日]（全体、性別）



【介護・看護】（身の回りの世話、付き添い、送迎移動など）

《実施率》

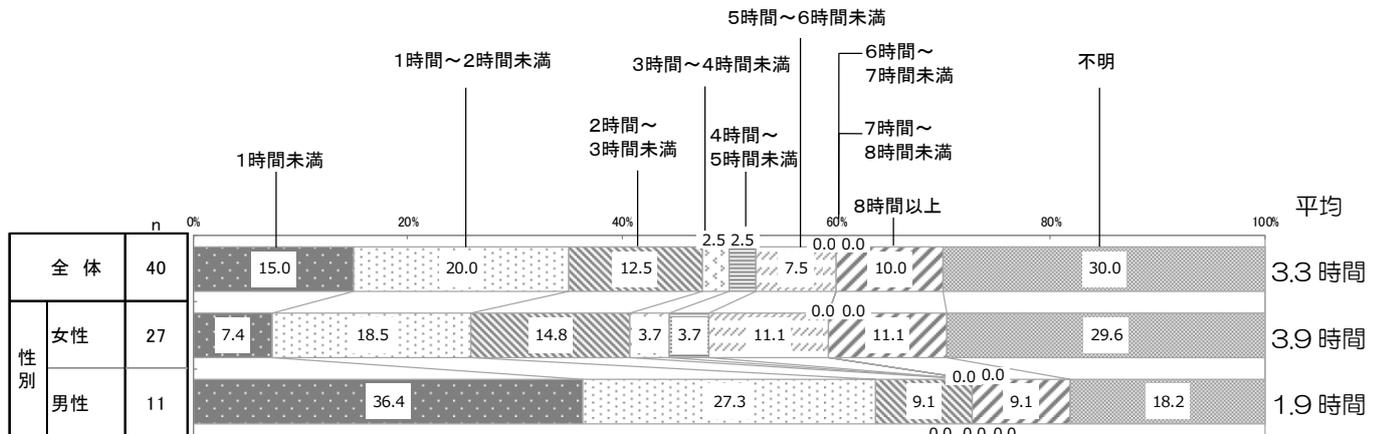
図表一問3-⑧ 日常生活における介護・看護の従事（性別）



《介護・看護にかける時間》

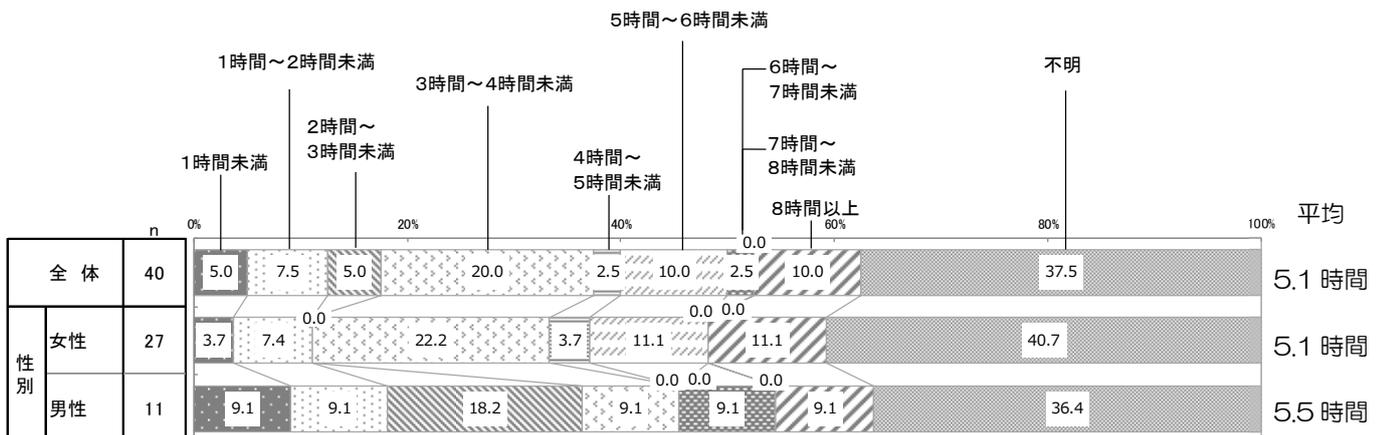
[平日]

図表一問3-⑨ 介護・看護にかける平均時間[平日]（全体、性別）



[休日]

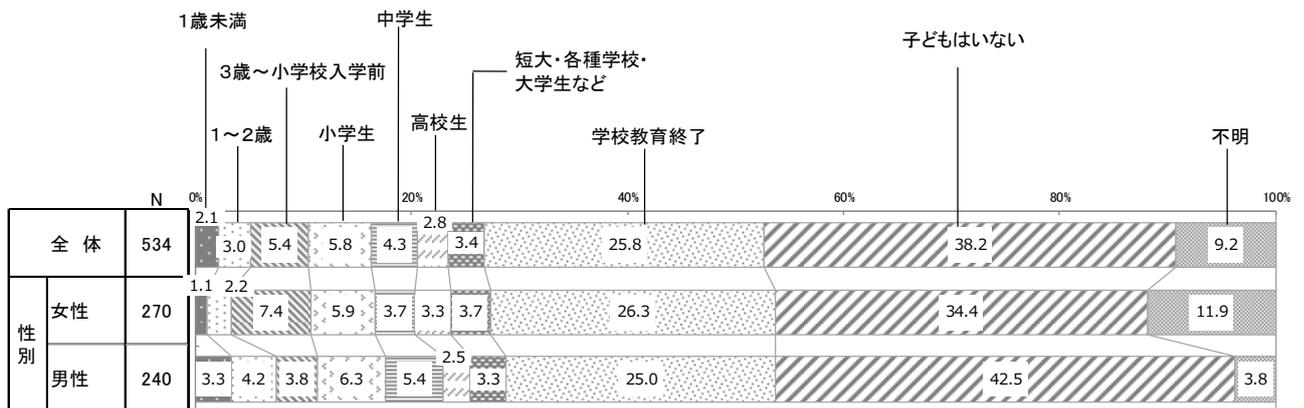
図表一問3-⑩ 介護・看護にかける平均時間[休日]（全体、性別）



**問 4** あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃるとすれば、一番下のお子さんは次のどの段階にあたりますか。(○は1つ)

子どもがいる比率は合計 52.6%。就学状況別にみると、学校教育終了が 25.8%と最も多く、ついで未就学児の 10.5%、小学生の 5.8%となる。

図表一問4—① 末子の成長段階（全体、性別）

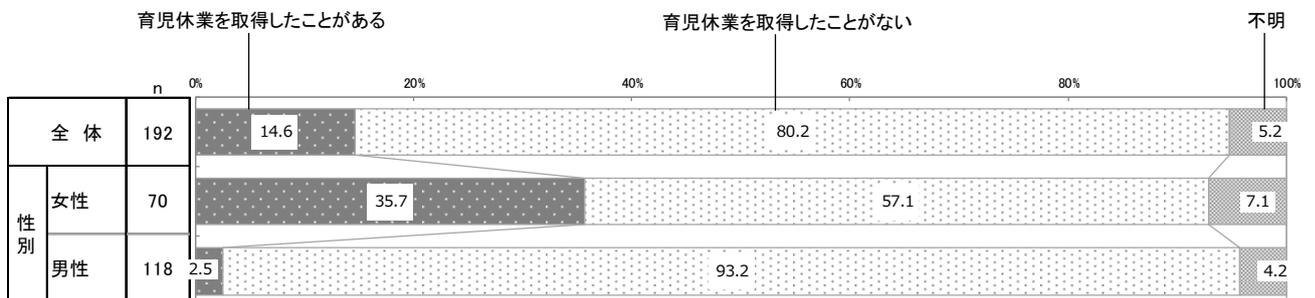


(問4で「1.1歳未満」～「8.学校教育終了」と答えた方)

**問 4-1** あなたは、育児休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

取得率は女性 35.7%、男性 2.5%。特に、女性の30代(77.8%)、正社員・役員、正職員(83.3%)で取得率が高い。

図表一問4—② 育児休業取得の有無（全体、性別）



※問4-2で「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いて集計。

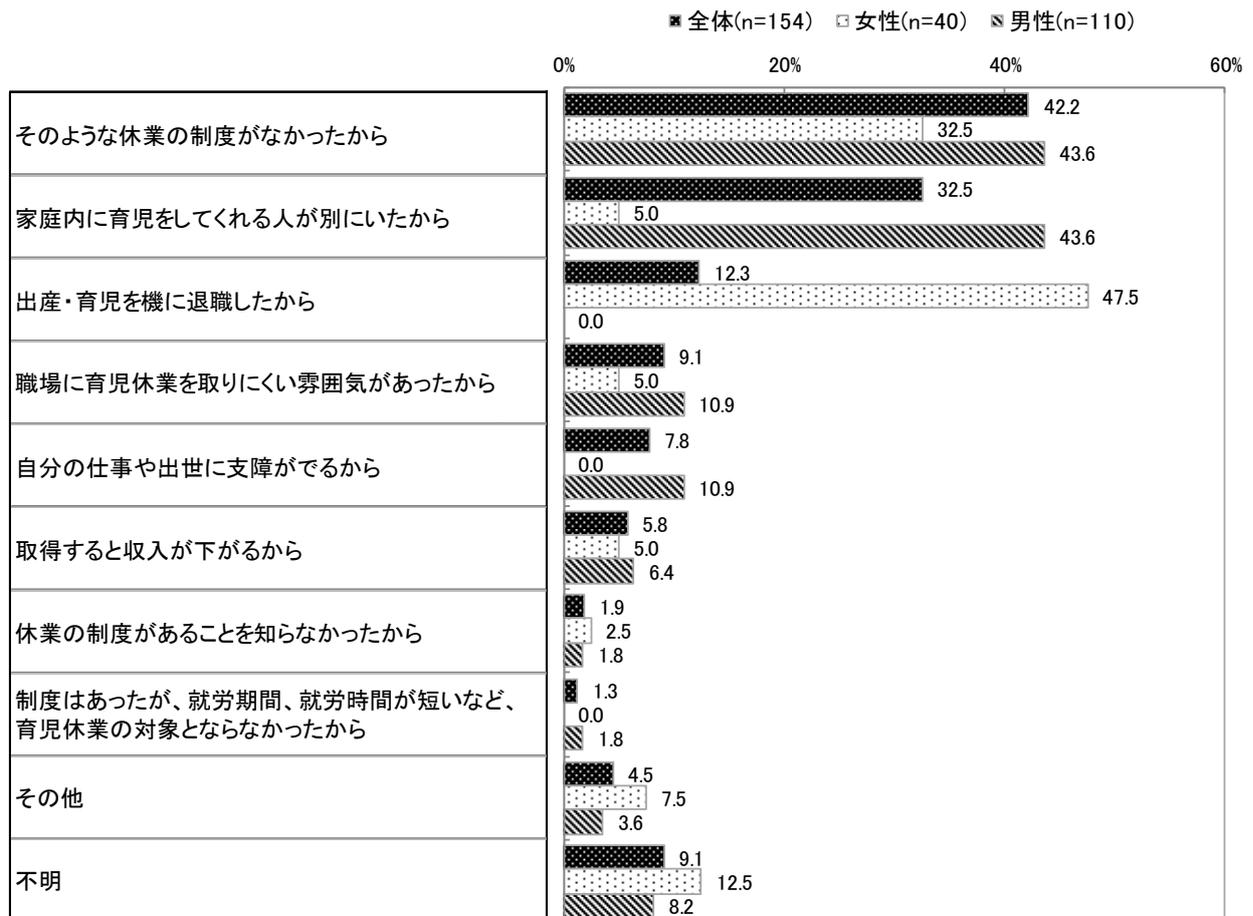
(問 4-1 で「2.育児休業を取得したことがない」と答えた方)

問 4-2

あなたが育児休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(〇はいくつでも)

とらなかった理由は、女性では、「出産・育児を機に退職した」47.5%、「そのような制度がなかった」32.5%。男性では、「そのような制度がなかった」「育児をしてくれる人が別にいた」がともに43.6%。

図表一問4—③ 育児休業未取得の理由（全体、性別）

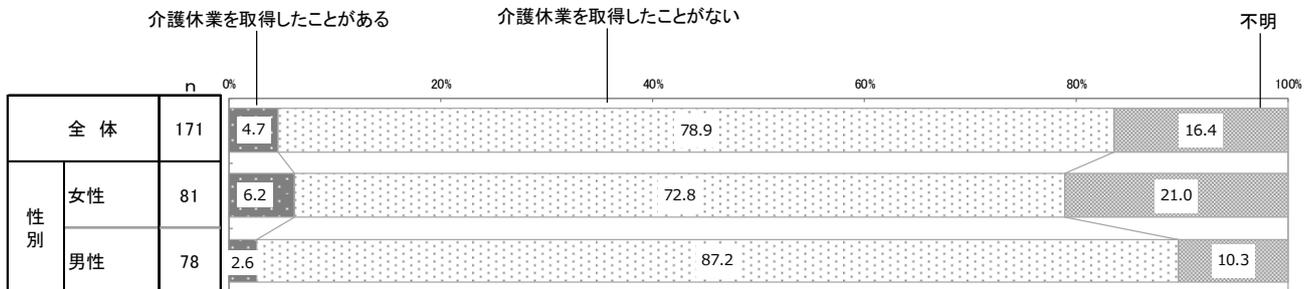


※「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いて集計。

**問5** あなたは、介護休業を取得したことがありますか。(○は1つ)

介護休業の取得率は、全体で4.7%、女性6.2%、男性2.6%とまだまだ低い。

図表一問5—① 介護休業取得の有無(全体、性別)



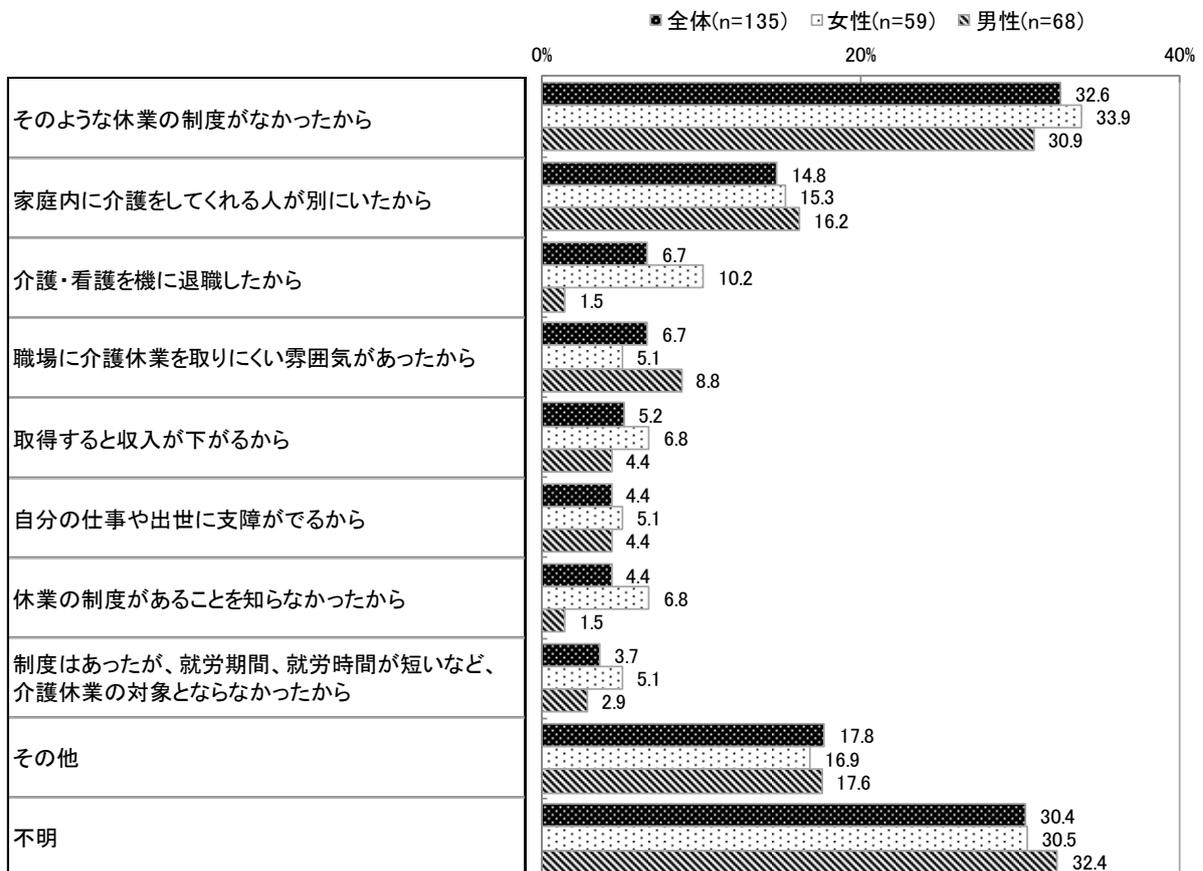
※問5-1で「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いて集計。

(問5で「2.介護休業を取得したことがない」と答えた方)

**問5-1** あなたが介護休業をとらなかった理由の中であてはまるものをお答え下さい。(○はいくつでも)

取得していない最大の理由は「そのような休業の制度がなかったから」(32.6%)。

図表一問5—② 介護休業未取得の理由(全体、性別)

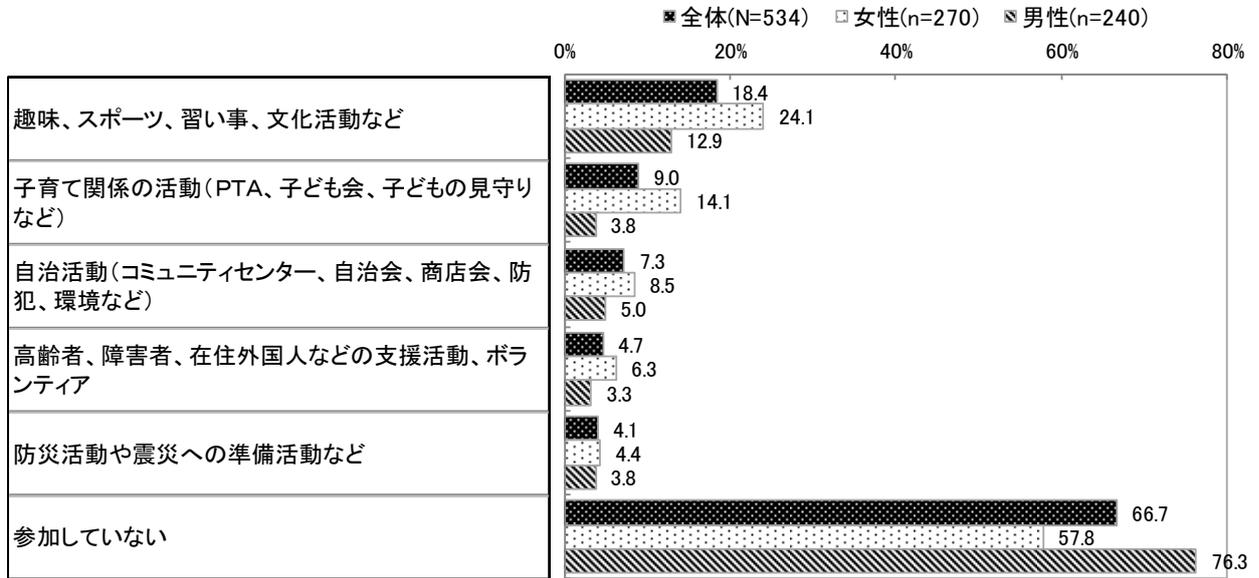


※「介護の対象となる家族がいなかったから」「働いていなかったから」「自由業・自営業などを営んでおり、そもそも対象ではなかったから」と回答した方を除いて集計。

**問 6** あなたは市や地域での活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

地域活動への参加率は、全体で 31.2%、女性 38.5%、男性 23.3%。多いのは趣味などの活動。

図表一問6—① 地域活動参加の有無(全体、性別)

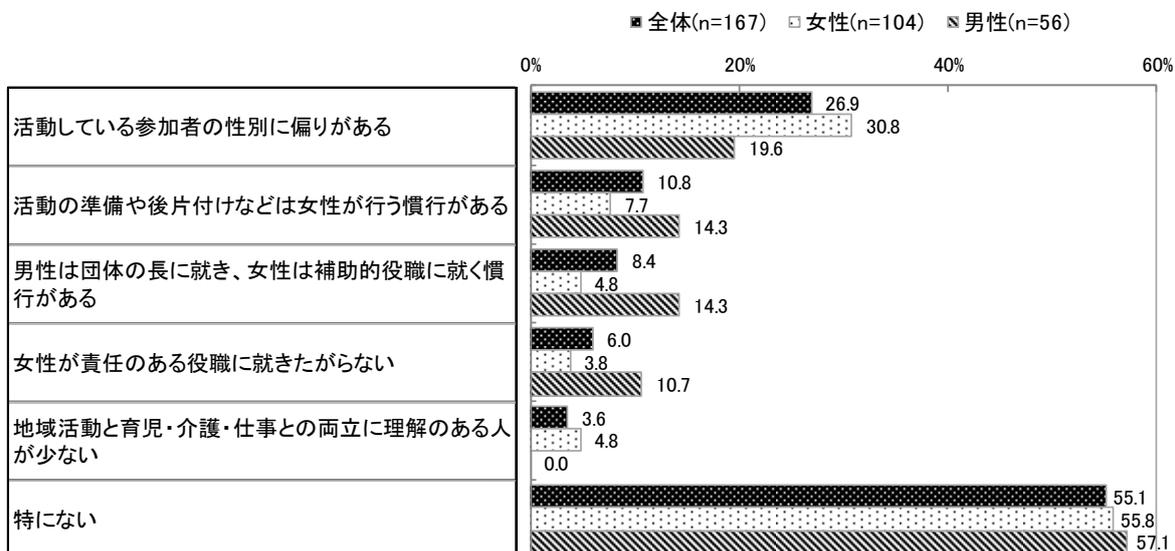


(問6で「1.子育て関係の活動」～「6.その他」と答えた方)

**問 6-1** あなたが現在活動されている団体で、次のようなことはありますか。(〇はいくつでも)

女性で多いのは「参加者の性別の偏り」。一方、男性では、男女ごとの役割の差を課題としている場合が多い。

図表一問6—② 活動団体での課題(全体、性別)

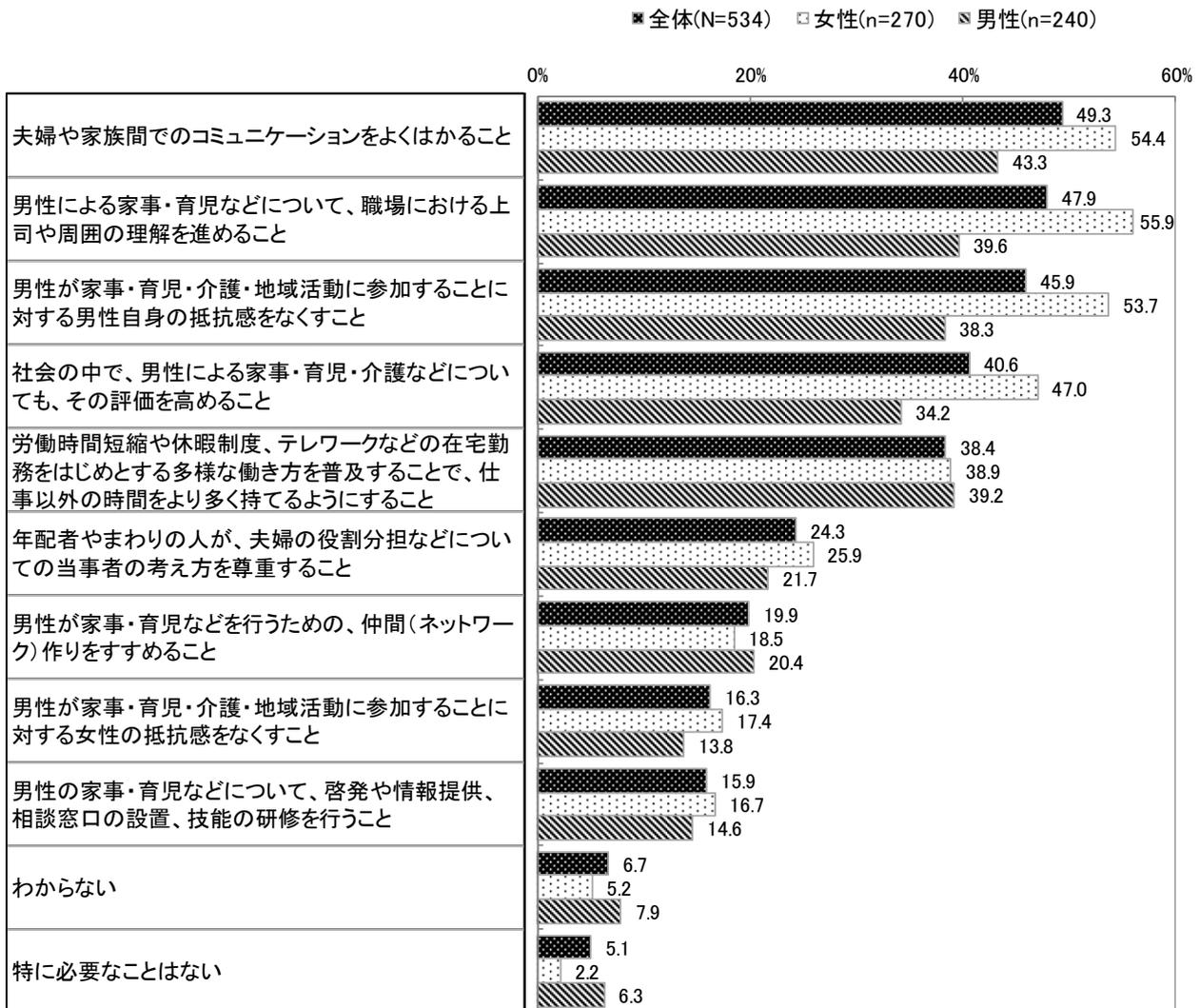


問7

今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「夫婦や家族間でのコミュニケーション」(49.3%)、「男性による家事・育児への職場の理解」(47.9%)、「男性の抵抗感をなくすこと」(45.9%)という意見が上位。

図表一問7-① 男性が家事、育児、介護、地域活動に参加するために必要なこと(全体、性別)



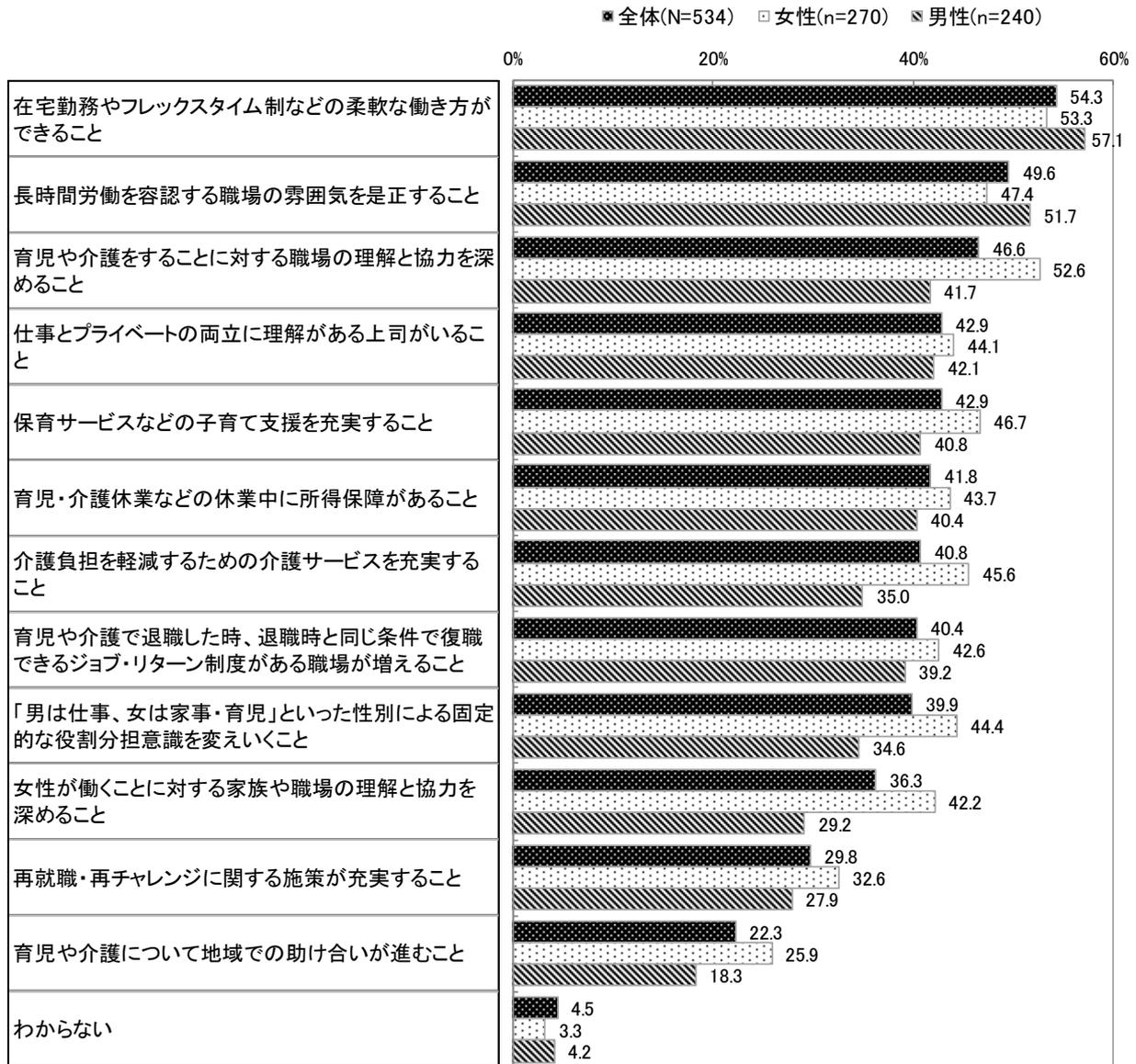
3. 仕事とワーク・ライフ・バランスについて

問8

これから男女がともに働きやすくなるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

男女ともに在宅勤務やフレックスタイム制などの柔軟な働き方を求める声が多い。女性では、育児や介護に対する職場の理解と協力への回答が続く。

図表一問8—① 男女がともに働きやすくなるために必要なこと（全体、性別）

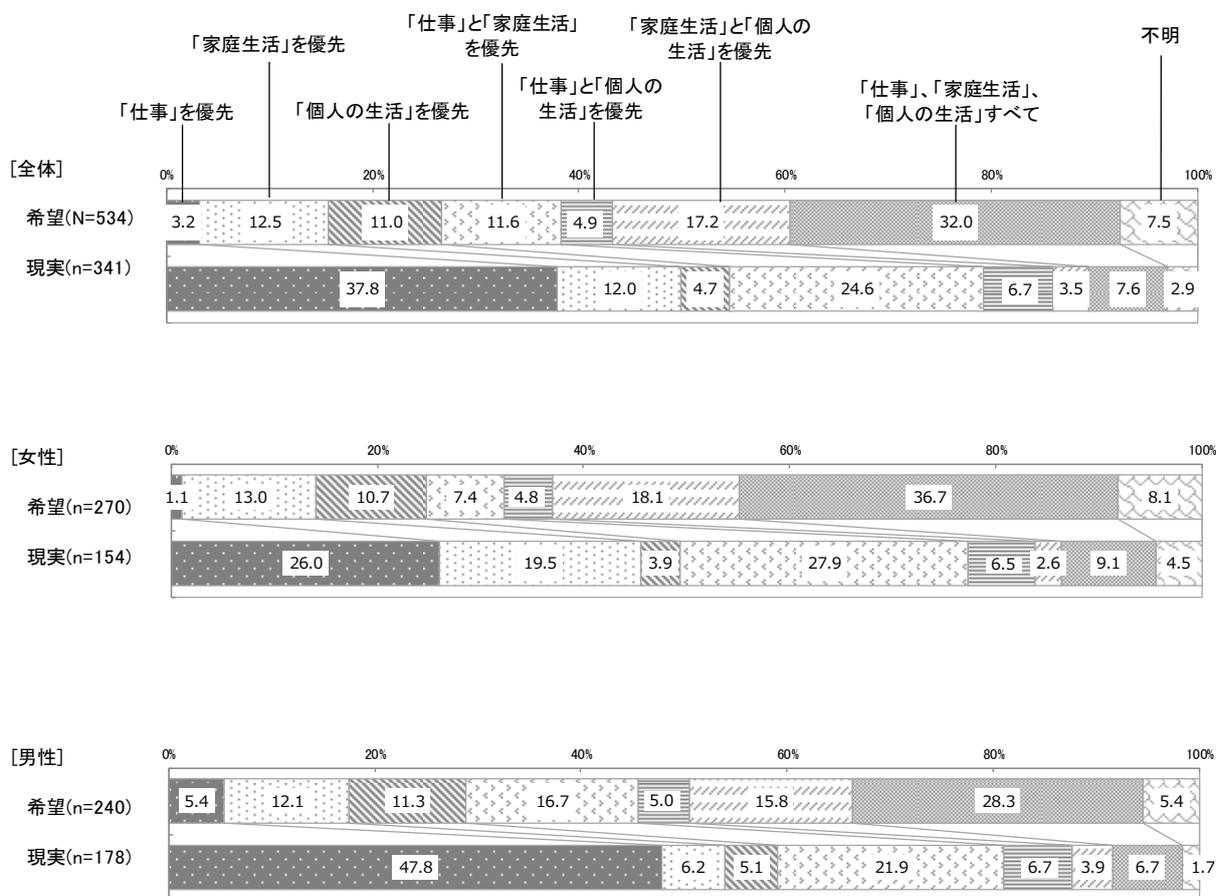


問9

あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についてお伺いします。

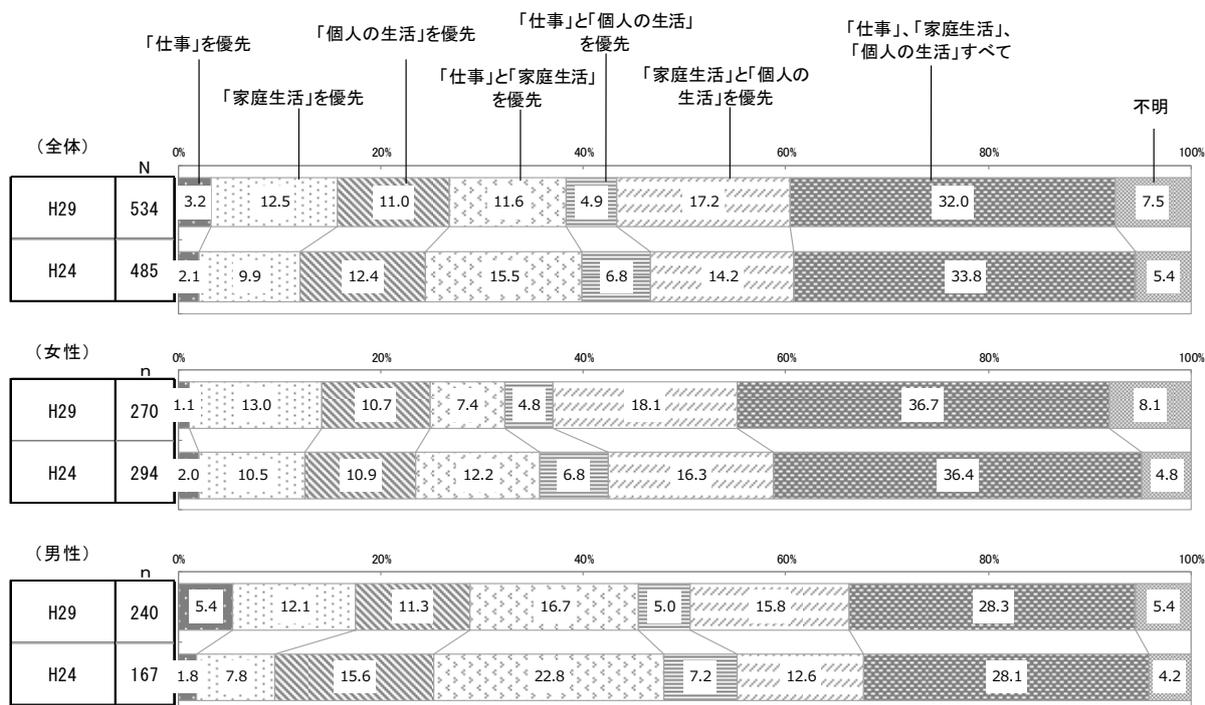
希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべてを優先が多いが、現実には仕事優先。男女別で見ると、女性の希望では仕事・家庭生活・個人の生活すべて優先が多く、現実では女性は仕事と家庭生活を優先、男性では仕事優先が多い。希望では、前回（平成24年）調査と比較して、男女ともに家庭生活を優先、家庭生活と個人の生活を優先がやや増加している。現実では、男女ともに増えているのは家庭生活を優先と家庭生活と個人の生活を優先、仕事・家庭生活・個人の生活すべての3つとなっている。

図表一問9-① ワーク・ライフ・バランスの希望と現実（全体、性別）



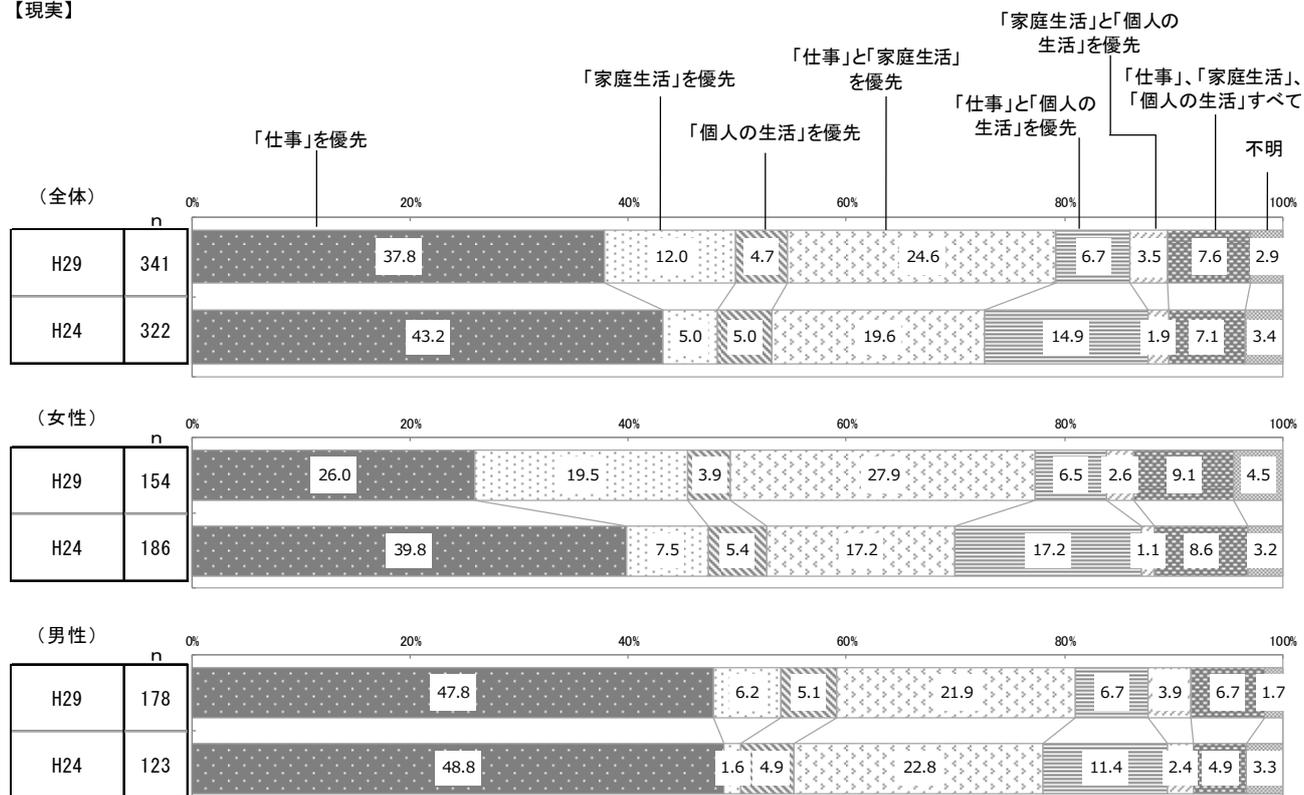
図表一問九-② ワーク・ライフ・バランスの希望（全体、性別）【経年比較】

【希望】



図表一問九-③ ワーク・ライフ・バランスの現実（全体、性別）【経年比較】

【現実】



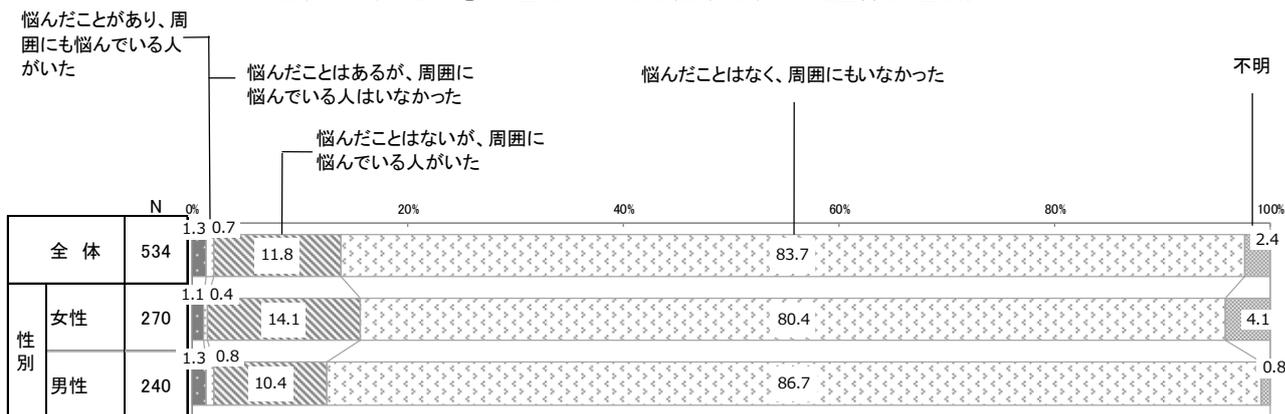
## 4. セクシュアル・マイノリティについて

問 10

あなたは今までに、自分の性別に違和感を覚えたり、恋愛感情が同性に向かうなど、性について悩んだことがありますか。または、周囲で悩んでいる人はいましたか。(○は1つ)

性の違和感について悩んだ人は2.0%、周囲に悩んでいる人がいた比率は13.1%。

図表—問 10—① 性についての悩みの有無（全体、性別）

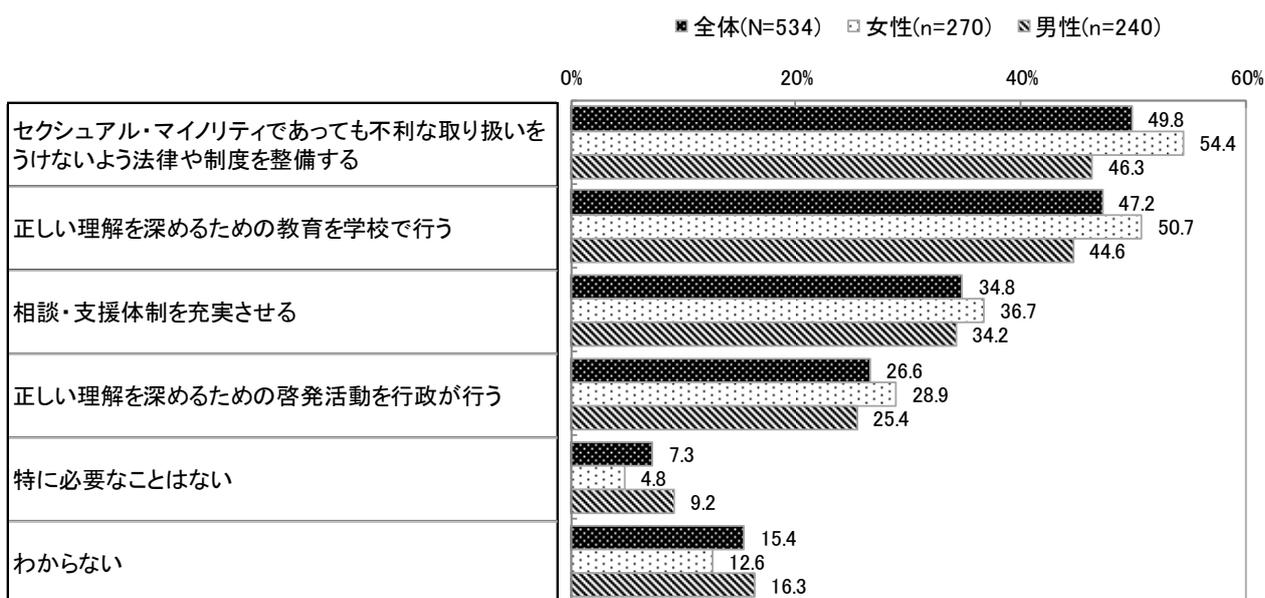


問 11

あなたは、セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。(○はいくつでも)

方策としては、法律や制度の整備が必要という意見が最も多く、ついで学校教育、相談・支援体制の充実と続く。

図表—問 11—① セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために必要な方策（全体、性別）



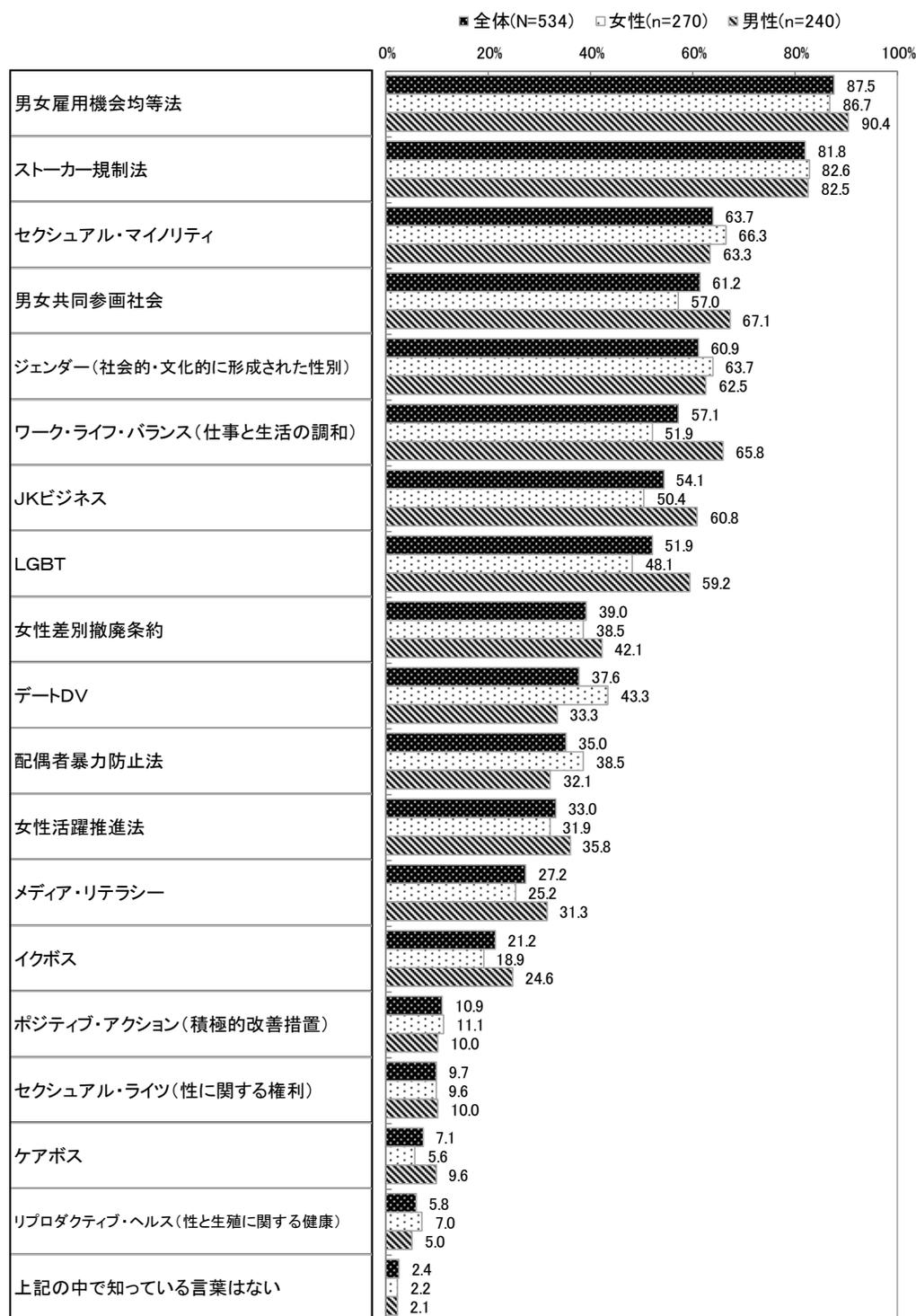
5. 男女平等意識について

問 12

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。  
(○はいくつでも)

男女雇用機会均等法とストーカー規制法の認知が高い。

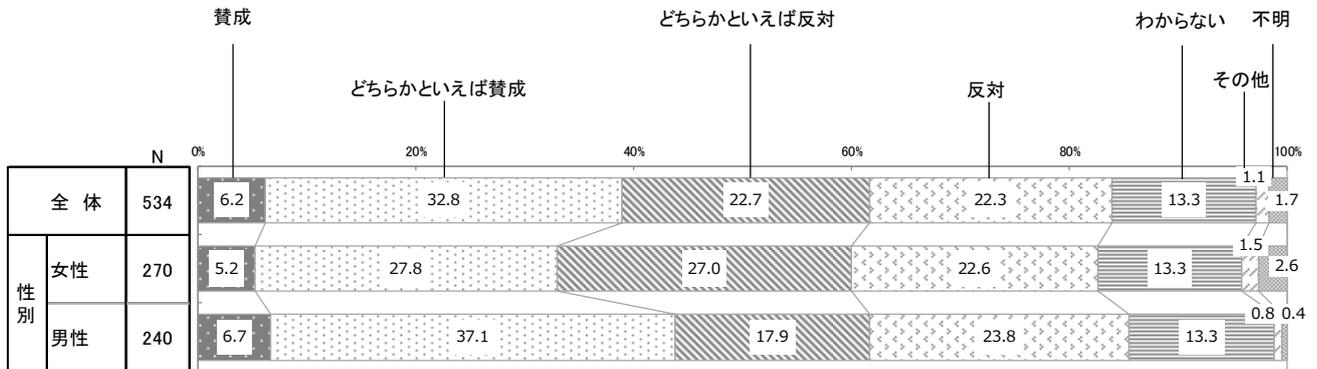
図表一問 12-① 男女平等などに関する言葉の認知（全体、性別）



**問 13** 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。この中から1つだけお答えください。(○は1つ)

賛成側の回答 39.0%に対し、反対側の回答は 45.0%と反対が多い。ただし、男女別にみると、女性では反対が多い一方で、男性では賛成側の意見の方が若干多い。

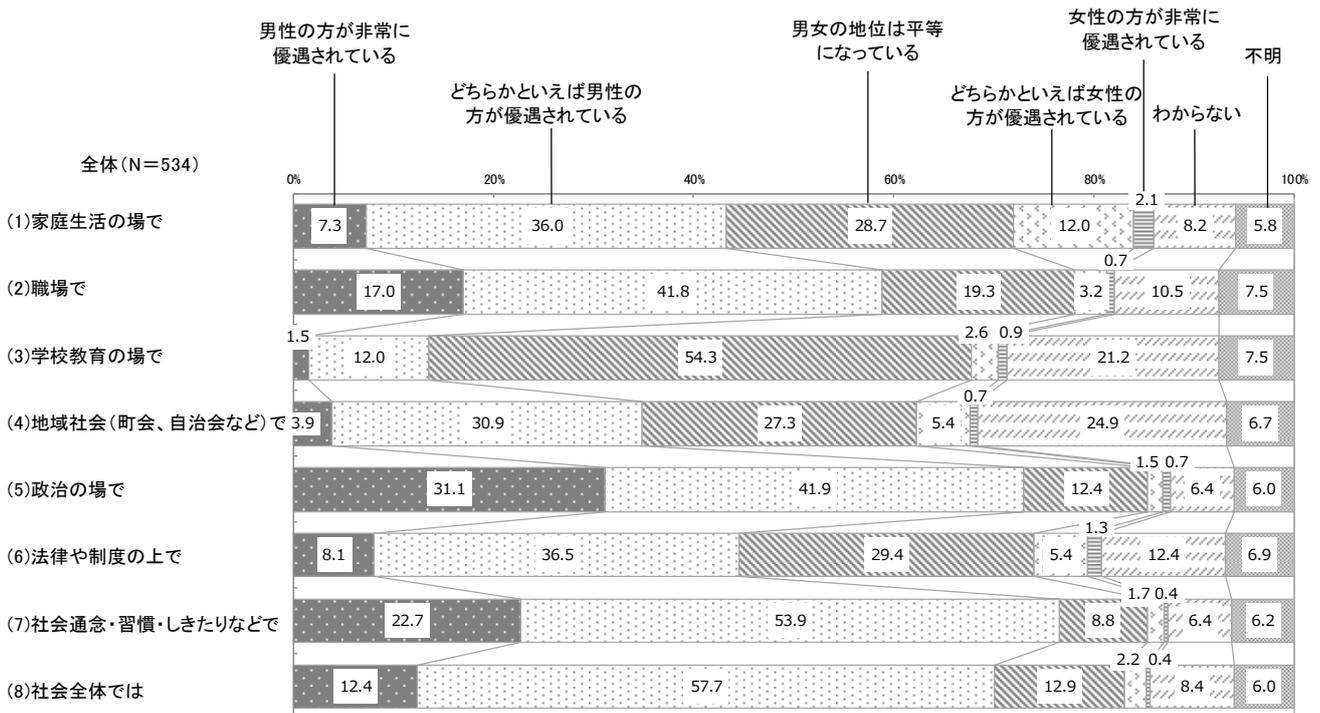
図表一問 13-① 夫婦役割分担（全体、性別）



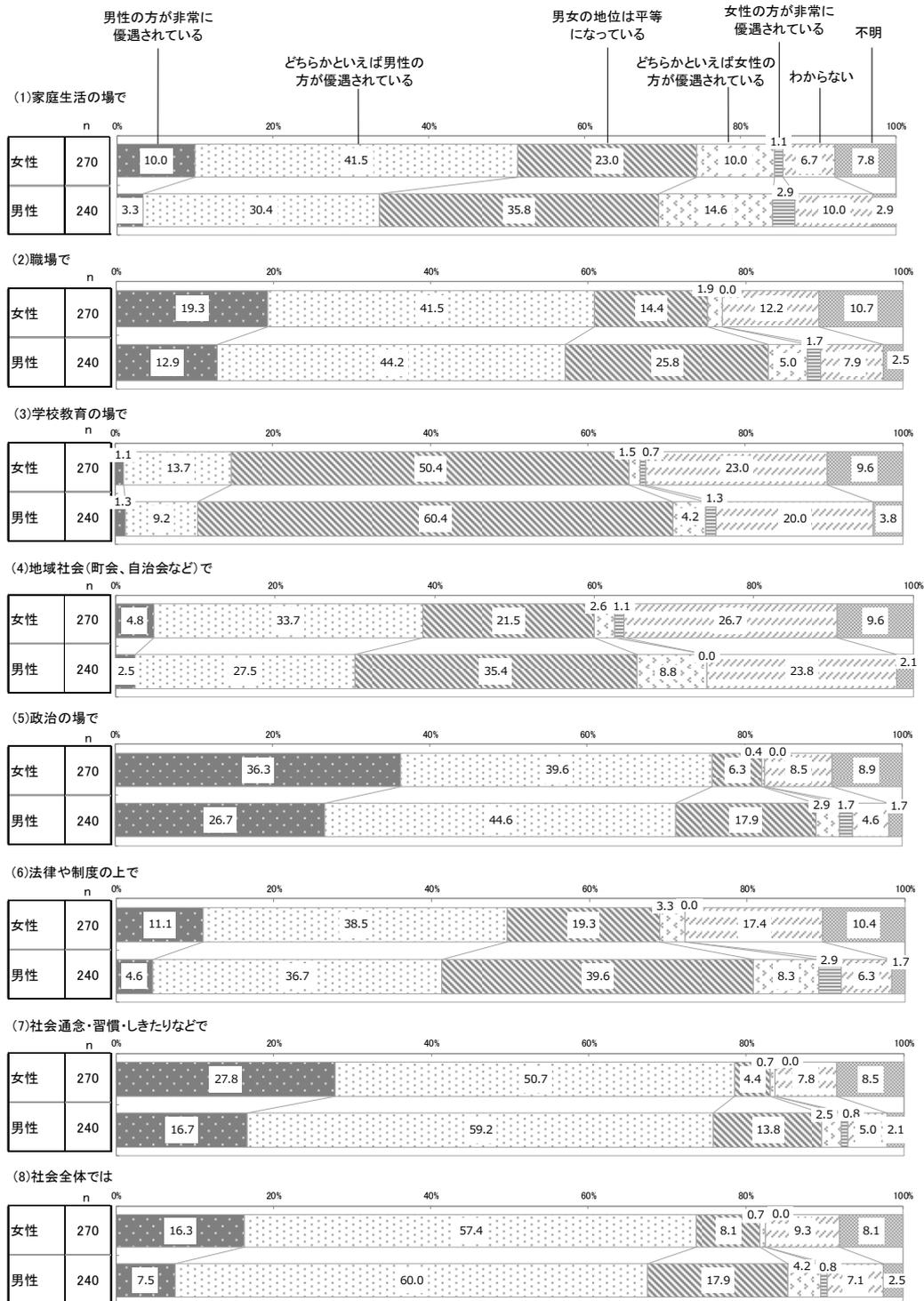
**問 14** あなたは次にあげるような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(それぞれについて○は1つ)

男女が平等になっていると半数以上の人を感じているのは学校教育のみ。社会全体では 70.1%の人が男性優遇と答えている。男女別では女性の方が男性優遇という回答が多い。

図表一問 14-① 男女の地位の平等感（全体）



図表一問 14-② 男女の地位の平等感（性別）

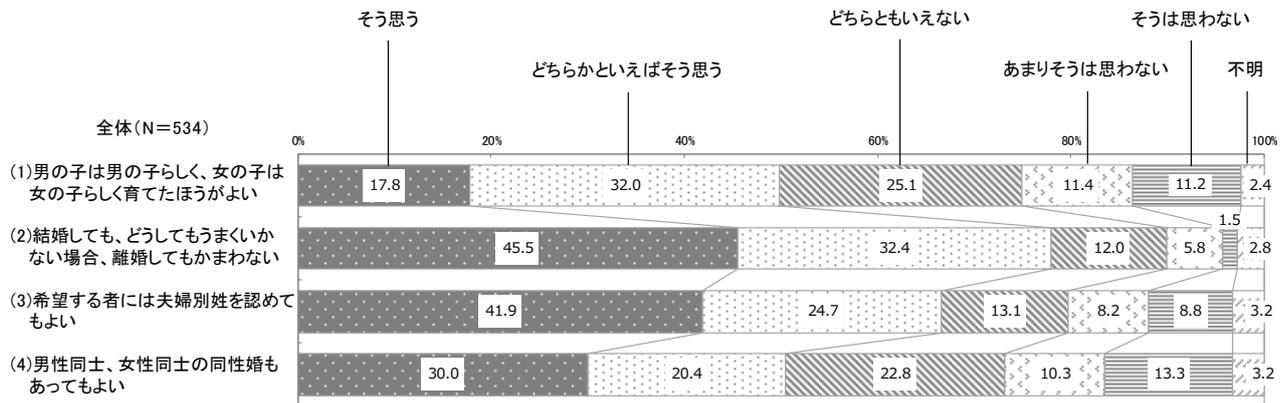


問 15

次にあげるような考え方について、あなたはどのように思いますか。  
(それぞれについて○は1つ)

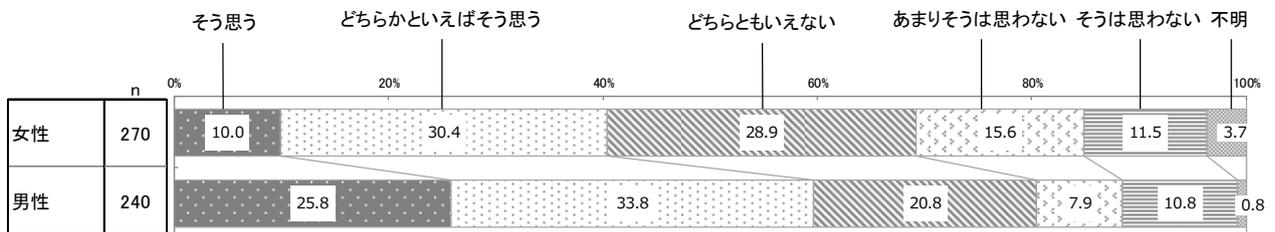
「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて 77.9%、「希望する者には夫婦別姓を認めても良い」は、「どちらかといえばそう思う」を含めて 66.6%。

図表一問 15—① 男女の役割や子育てに対する考え方（全体）

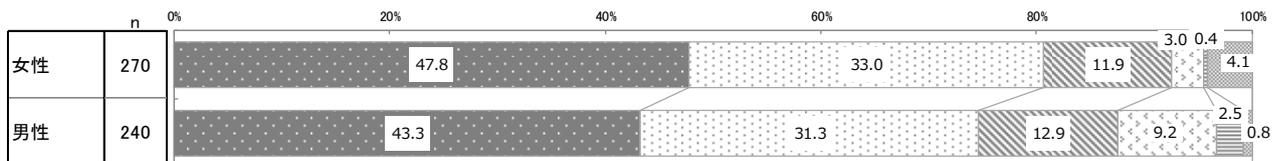


図表一問 15—② 男女の役割や子育てに対する考え方（性別）

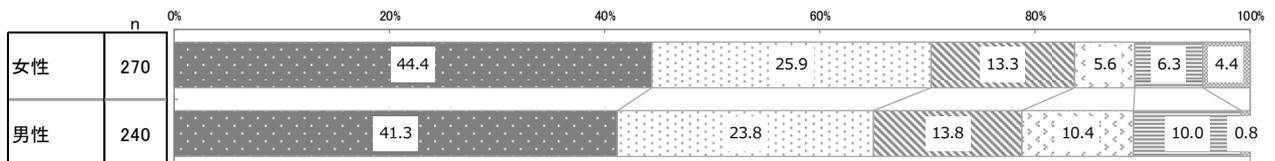
(1)男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい



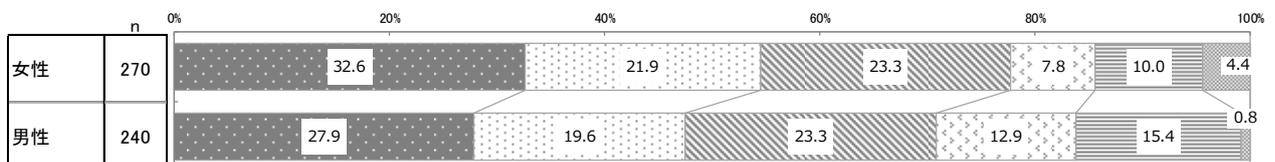
(2)結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚してもかまわない



(3)希望する者には夫婦別姓を認めてもよい



(4)男性同士、女性同士の同性婚もあってもよい

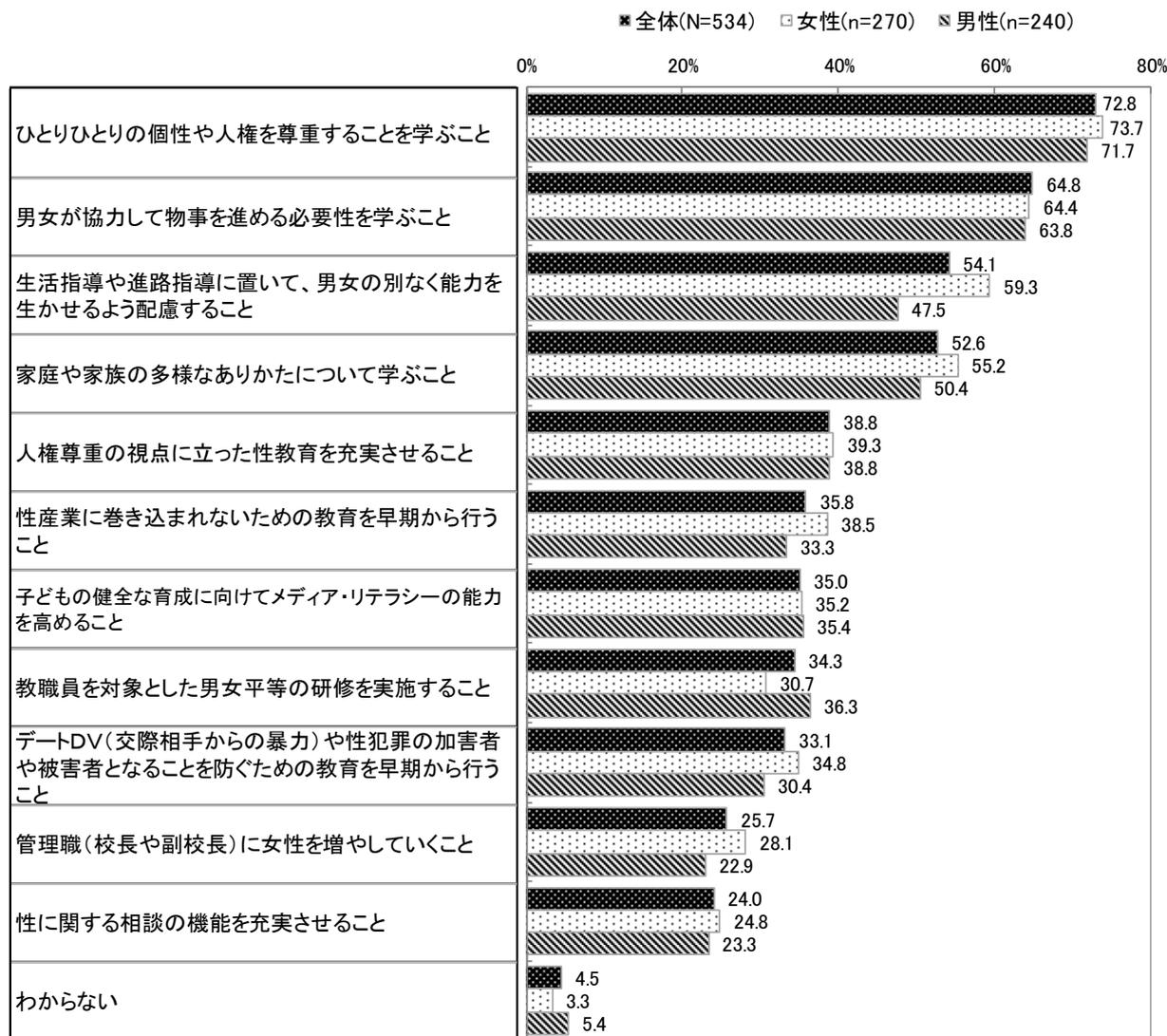


問 16

児童・生徒の男女平等の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

最も多いのは「個性や人権の尊重」の72.8%、ついで「男女の協力」64.8%、「男女の別のない生活・進路指導」54.1%。

図表一問 16—① 男女平等意識を育てるために学校教育で必要な取り組み（全体、性別）

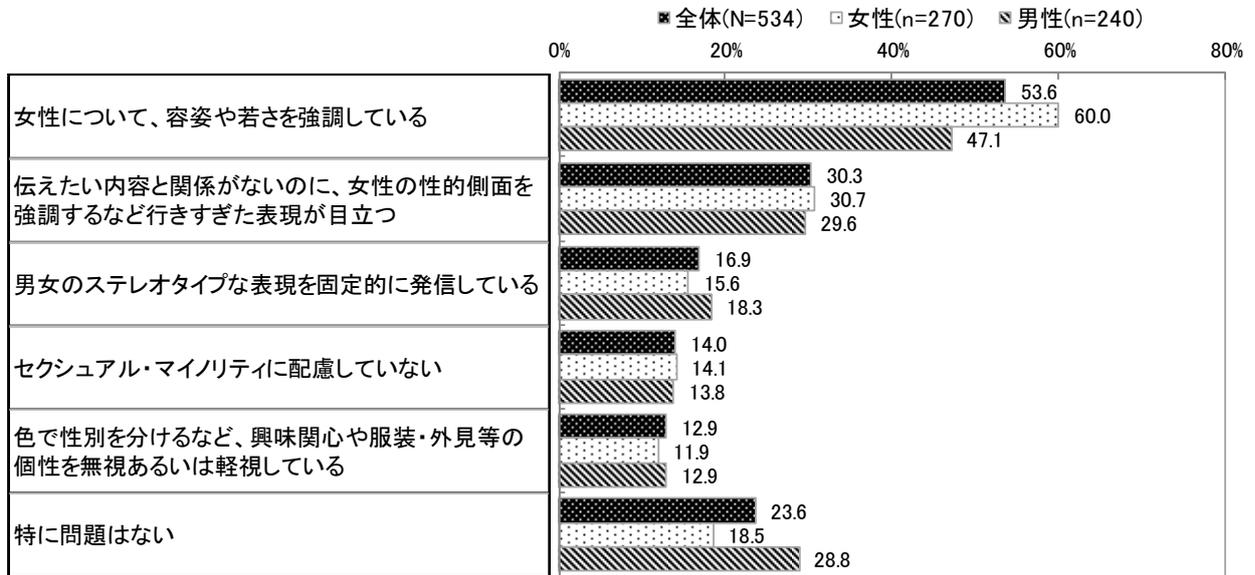


問 17

テレビや雑誌、インターネットなどのメディアが発信する表現について、あなたは日頃どのように感じますか。(〇はいくつでも)

「女性の容姿や若さの強調」が53.6%と多い。

図表一問 17-① メディアが発信する表現について感じる事(全体、性別)

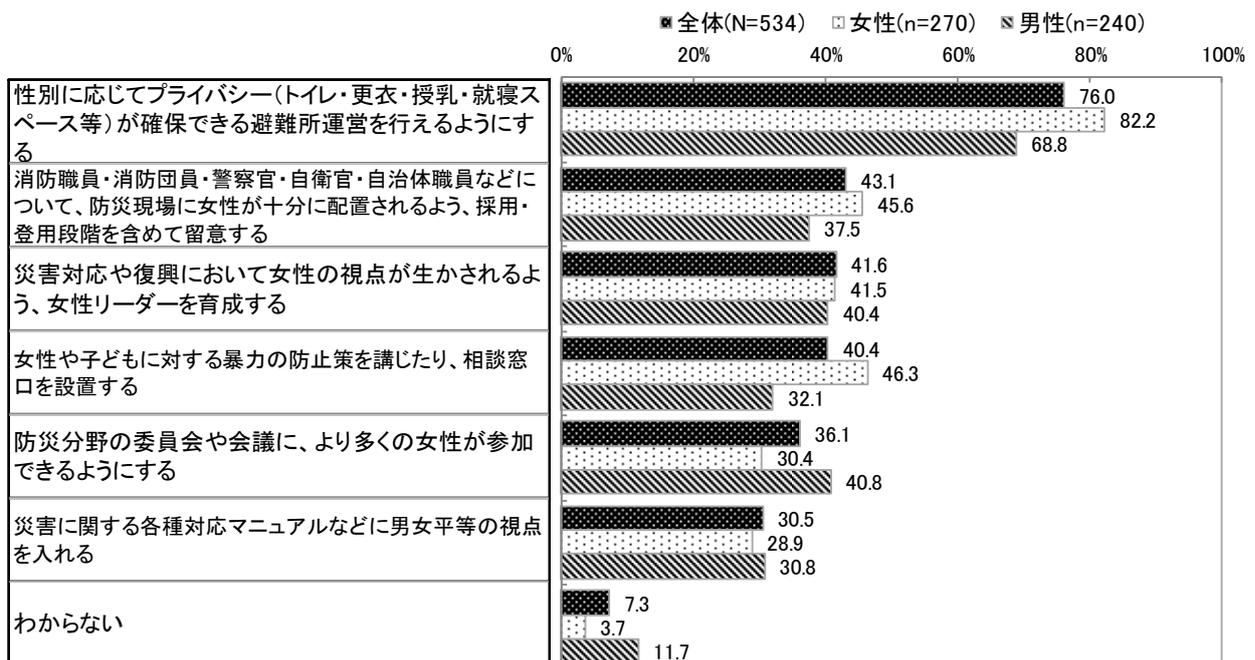


問 18

あなたは、災害対策に男女平等の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

最も重視されているのは避難所におけるプライバシー確保の76.0%。特に女性は82.2%と多い。

図表一問 18-① 災害対策に男女平等の視点を生かすために重要なこと(全体、性別)



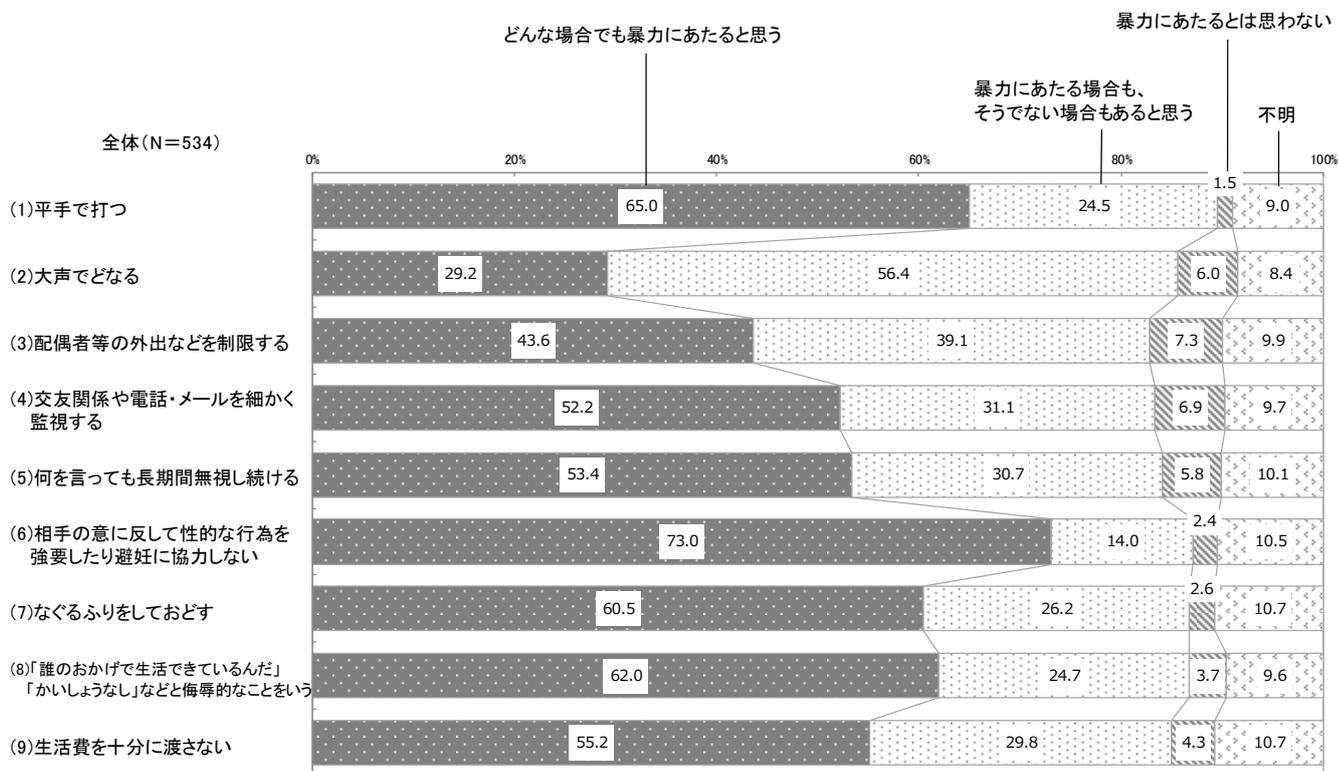
6. 男女間の暴力について

**問 19** 親密な間柄で起きる次のような行動を、暴力にあたると思いますか。  
 (それぞれの項目について、番号に1つずつ○)  
 また、これまでに配偶者や交際相手から次のようなことをされたことがありますか。  
 (それぞれの項目について、アルファベットに1つずつ○)

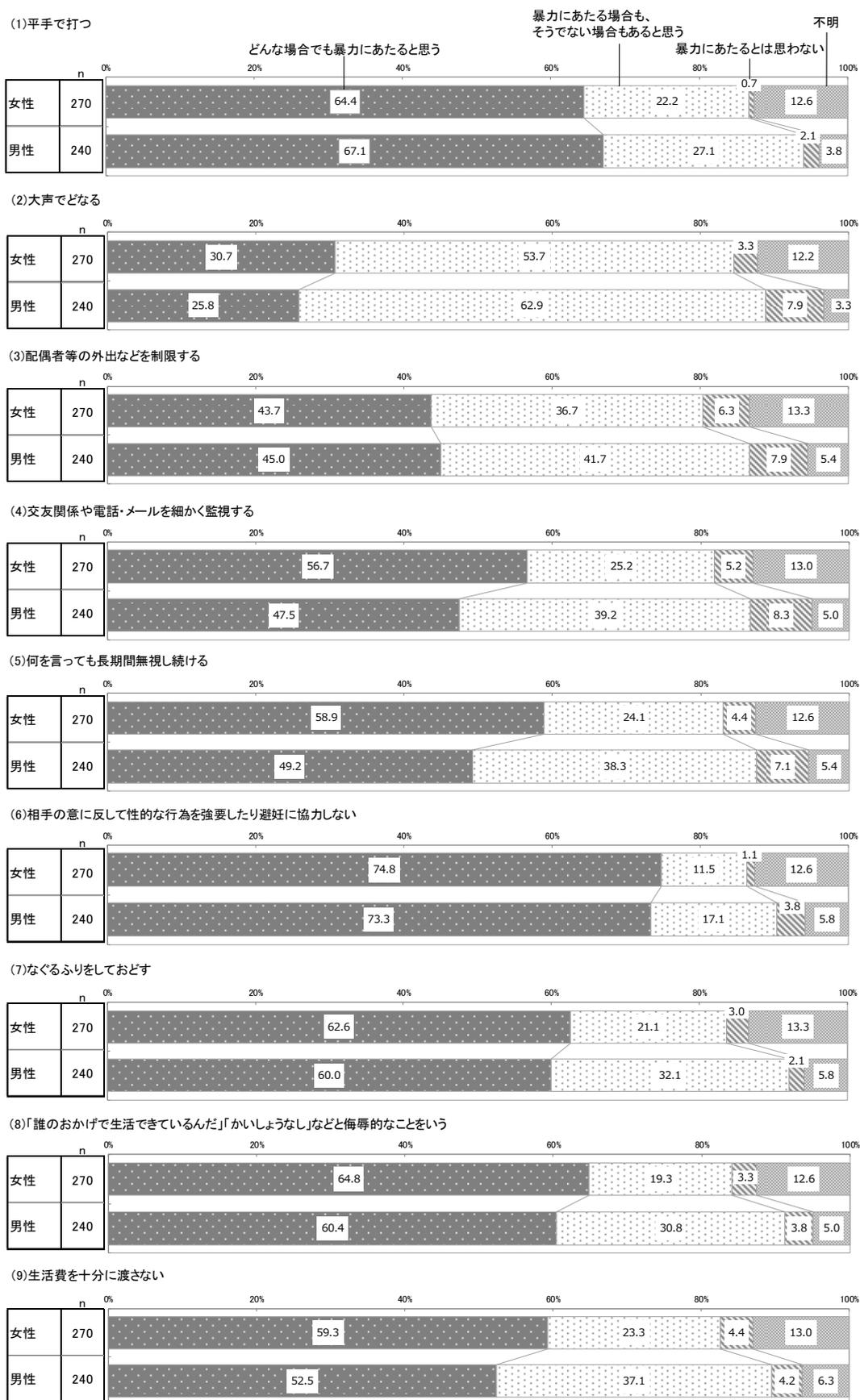
《暴力の認識》

暴力という認識が60%を超えているのは、「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」、「平手で打つ」、「『誰のおかげで生活ができているんだ』『かいしようなし』などと侮辱的なことをいう」、「なぐるふりをしておどす」。一方、「大声でどなる」は、場合によるという認識。

図表一問 19—① 親しい関係にある男女間の暴力の認識 (全体)



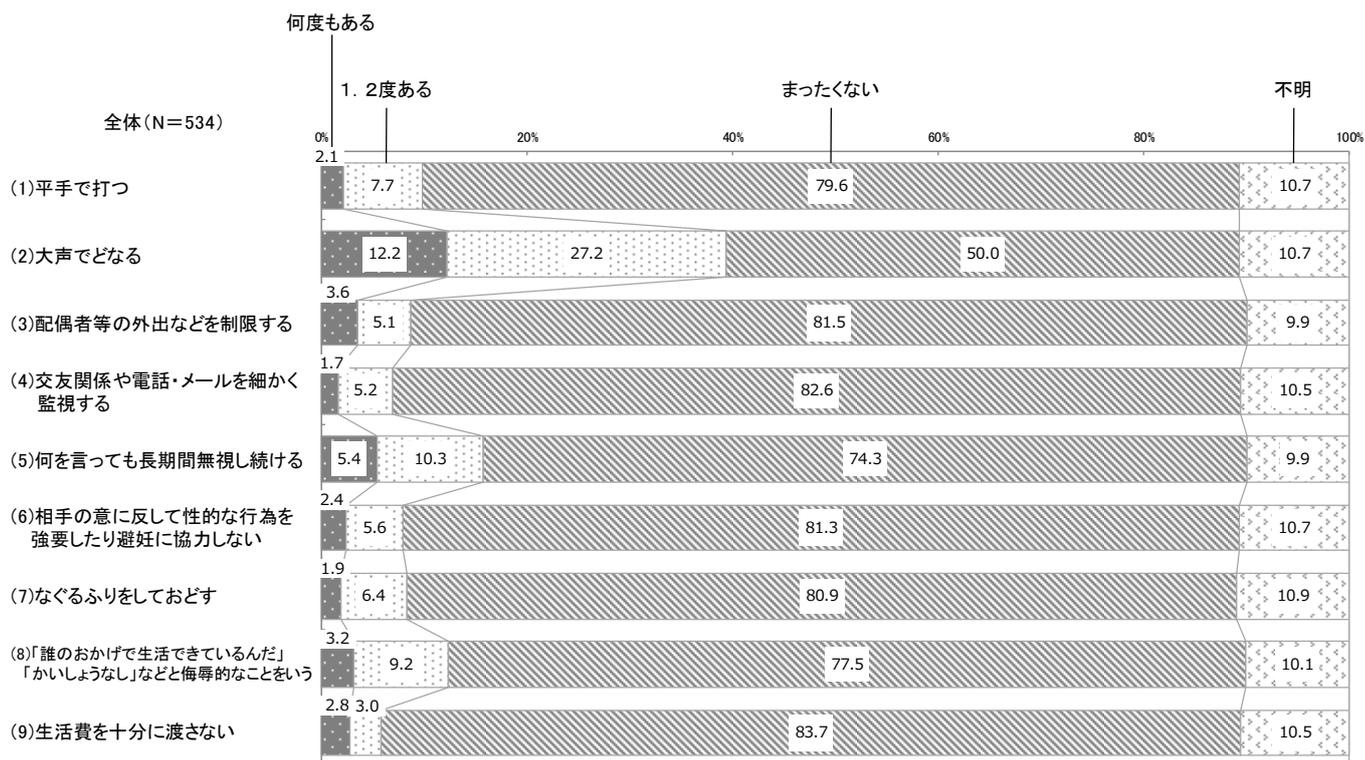
図表一問 19-② 親しい関係にある男女間の暴力の認識（性別）



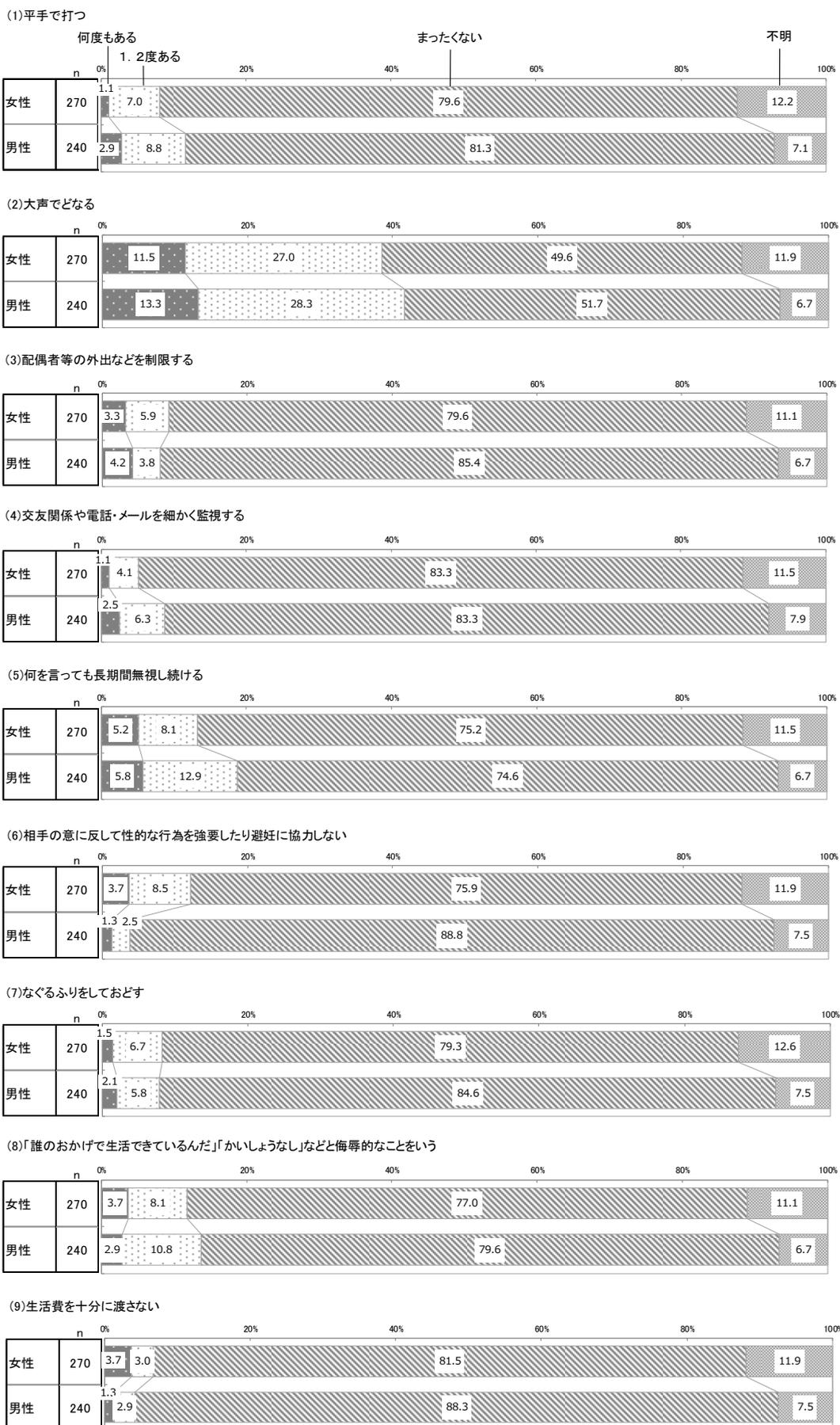
《暴力を受けた経験》

最も多いのは「大声でどなる」の39.4%で、ついで「何を言っても長期間無視し続ける」の15.7%。女性で多いのは「相手の意に反して性的な行為を強要したり避妊に協力しない」、男性では「何を言っても長期間無視し続ける」が多い。

図表一問 19—③ 親しい関係にある男女間の暴力の経験（全体）



図表一問 19-④ 親しい関係にある男女間の暴力の経験（性別）



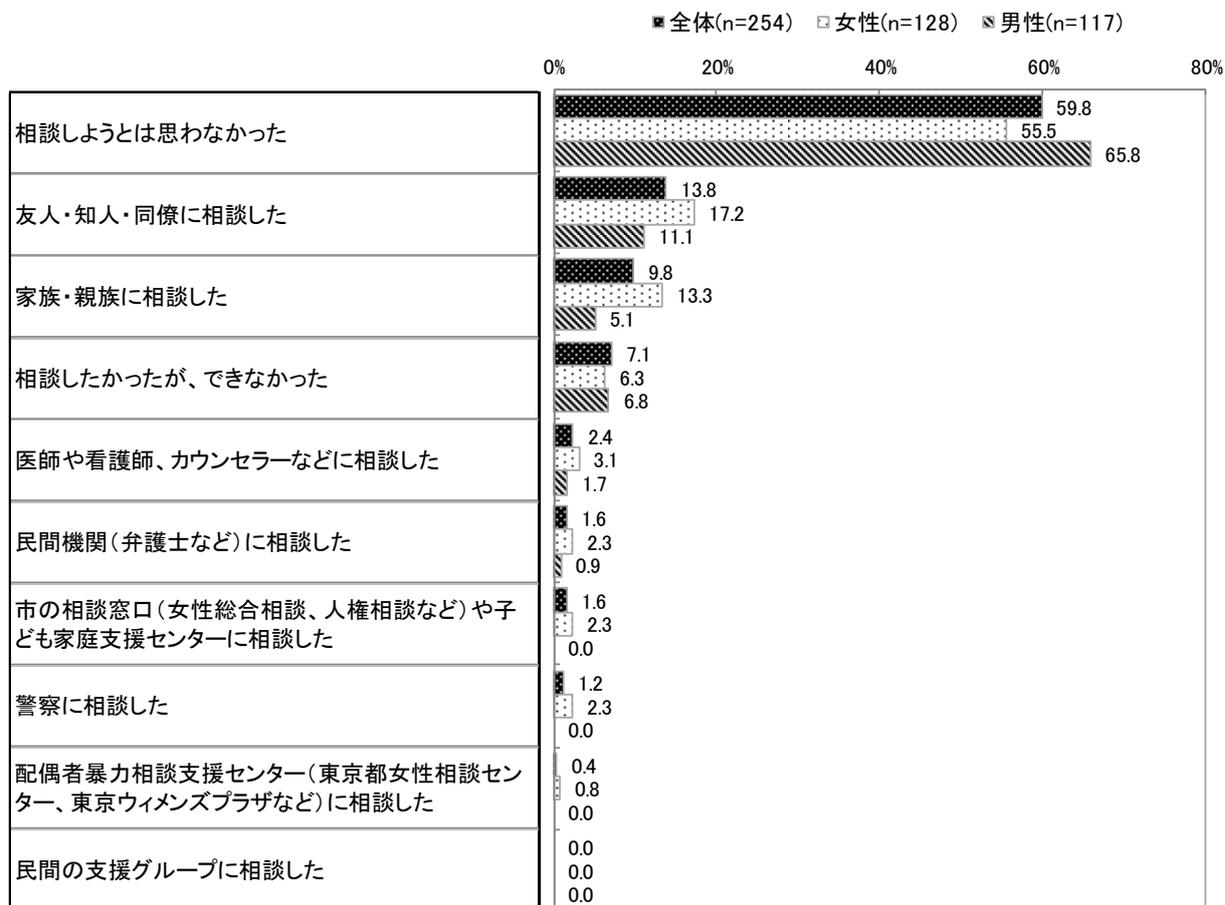
(問 19 のいずれかの項目で「A.何度もある」または「B.1、2度ある」と答えた方)

問 19-1

あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。  
(○はいくつでも)

全体の 59.8%が「相談しようとは思わなかった」、7.1%が「相談したかったが、できなかった」となっており、70%弱が相談していない。

図表一問 19—⑤ 暴力を受けたときの相談の有無/相談先(全体、性別)



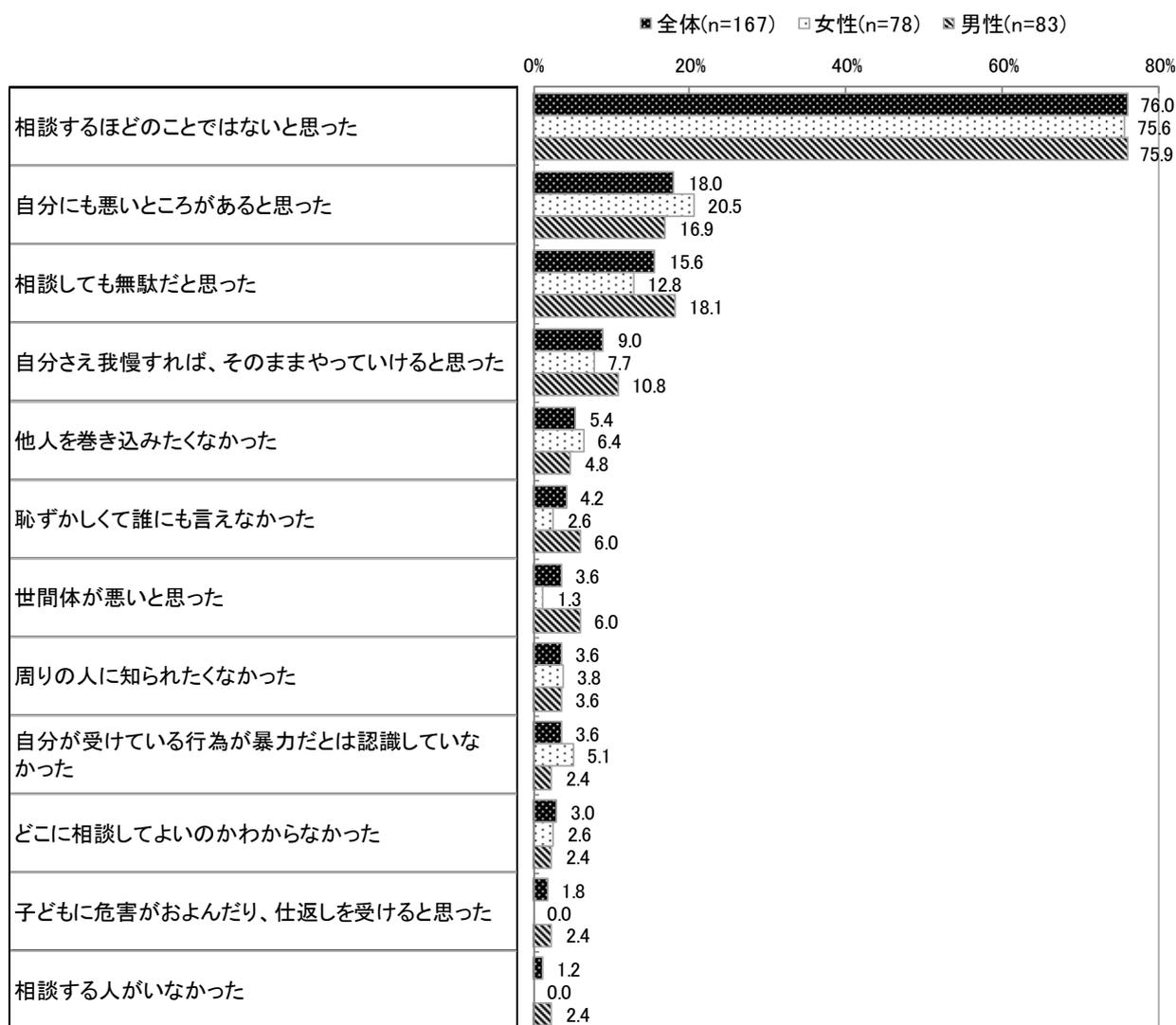
(問 19-1 で「1.相談したかったが、できなかった」または「2.相談しようとは思わなかった」と答えた方)

問 19-2

相談しなかった理由としてあなたのお考えに近いものを選んでください。  
(○はいくつでも)

全体の 76.0%が「相談するほどのことではないと思った」と回答。

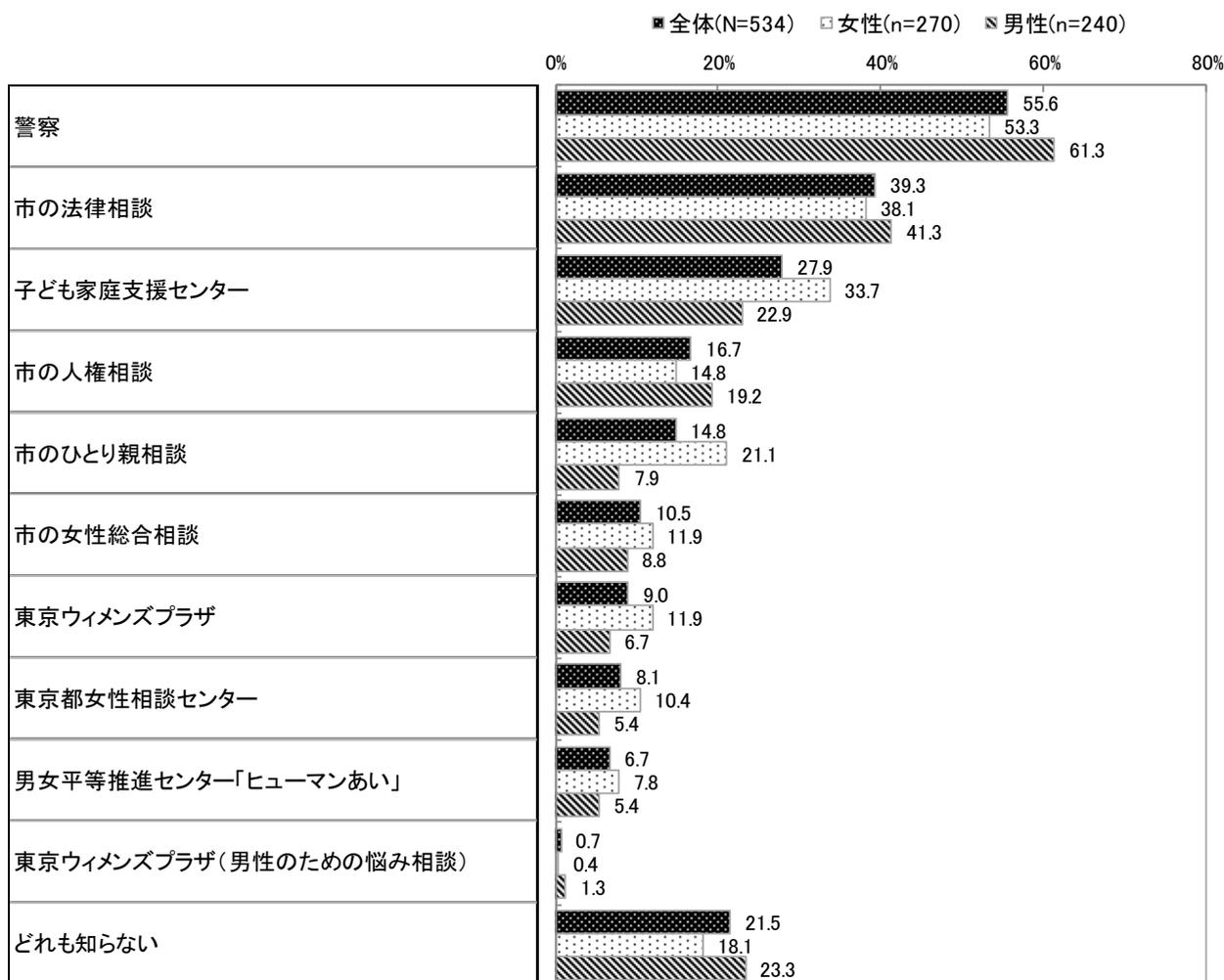
図表一問 19—⑥ 暴力を受けたときの相談しなかった理由(全体、性別)



問 20 あなたは下記の相談機関、相談窓口があることを知っていますか。(〇はいくつでも)

警察が55.6%と最も認知が高く、市の法律相談の39.3%、子ども家庭支援センターの27.9%が続く。

図表—問 20—① 暴力を受けたときの相談機関の認知（全体、性別）

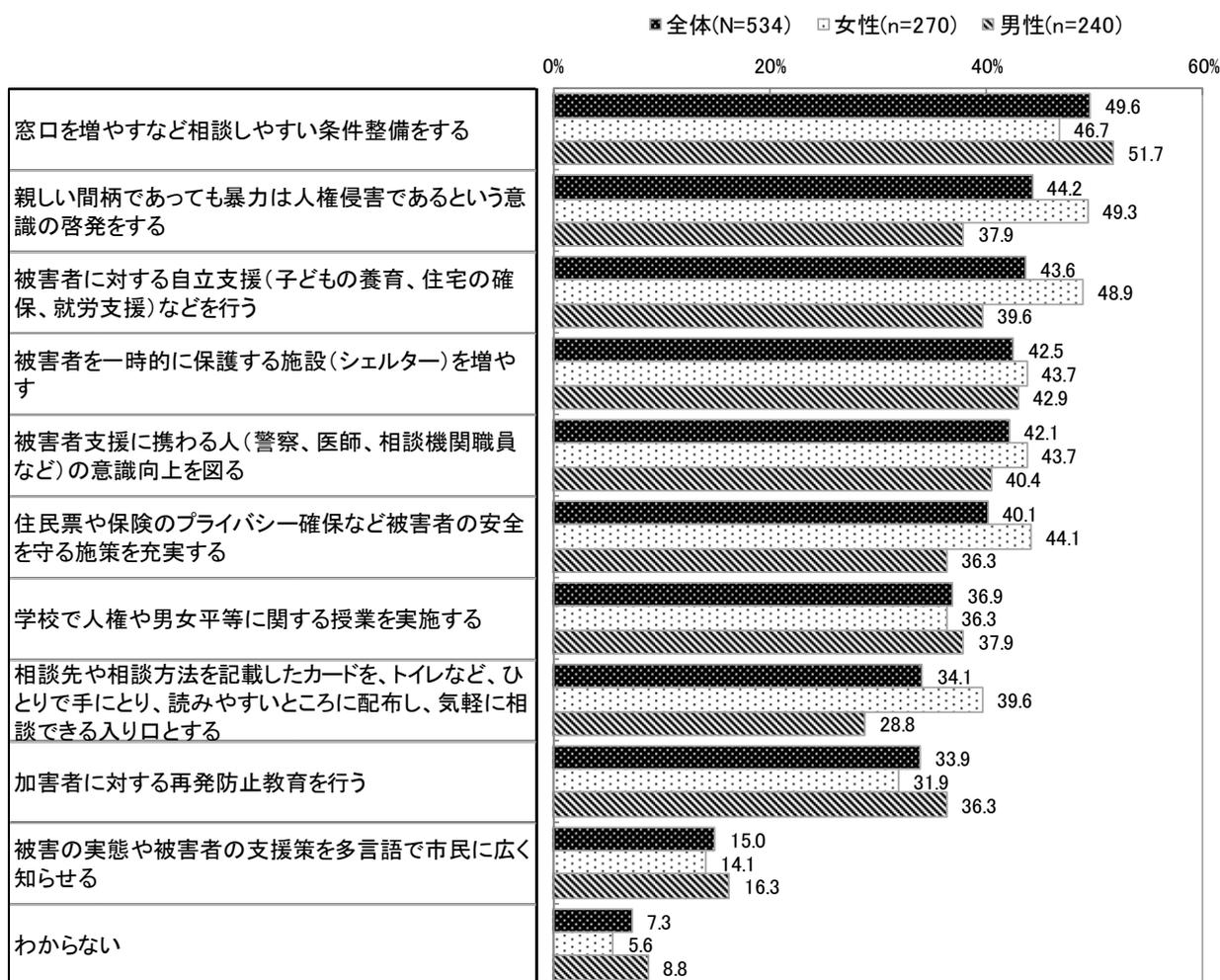


問 21

あなたは配偶者間での暴力（ドメスティック・バイオレンス）やデート DV の対策や防止のために、今後、武蔵野市の施策として特にどのような事業が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

最も多かったのは「窓口を増やすなどの条件整備」の 49.6%で、ついで「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発」の 44.2%。

図表一問 21—① 男女間の暴力を防止するために必要な市の施策（全体、性別）



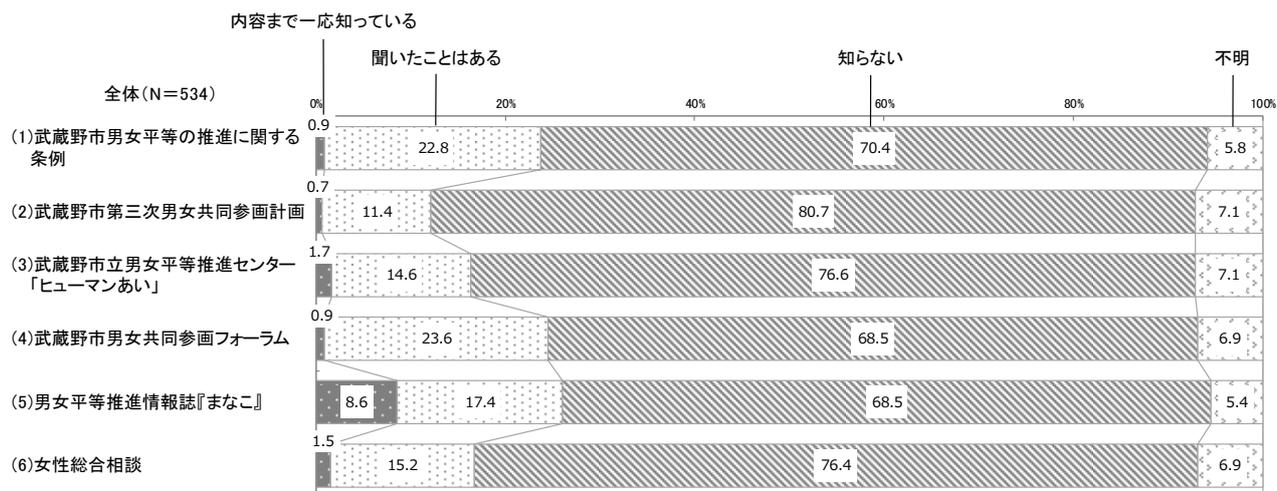
7. 市の施策について

問 22

あなたは、ここにあげる武蔵野市の取り組みを知っていますか。  
(それぞれについて○は1つ)

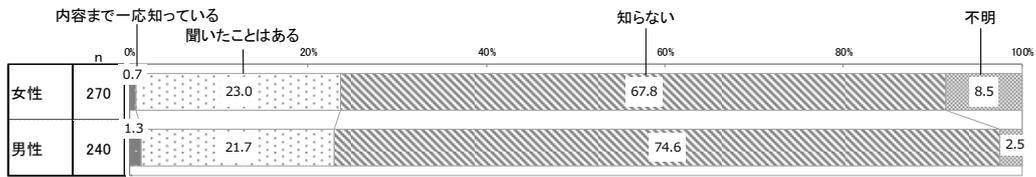
認知が最も高かったのは「男女平等推進情報誌『まなこ』」の26.0%。次に認知が高いのは、「聞いたことがある」まで含めれば「武蔵野市男女共同参画フォーラム」の24.5%、「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の23.7%が続く。

図表一問 22—① 武蔵野市の施策の認知（全体）

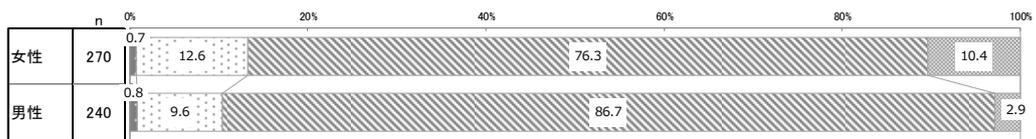


図表一問 22-② 武蔵野市の施策の認知（性別）

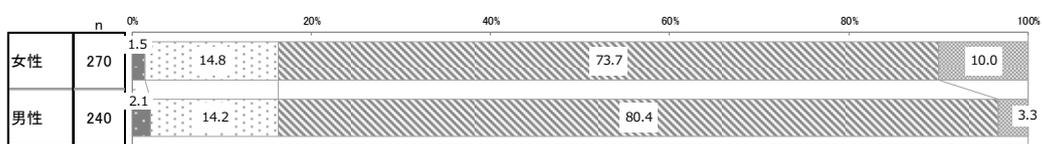
(1)武蔵野市男女平等の推進に関する条例



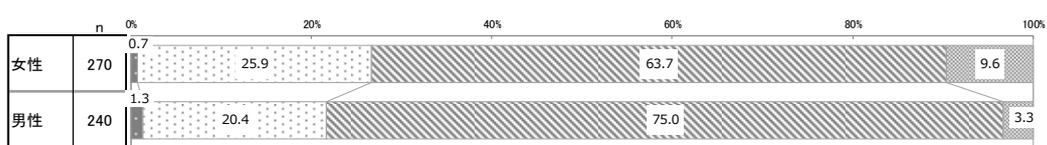
(2)武蔵野市第三次男女共同参画計画



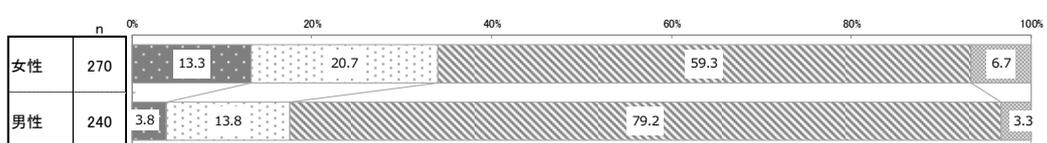
(3)武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」



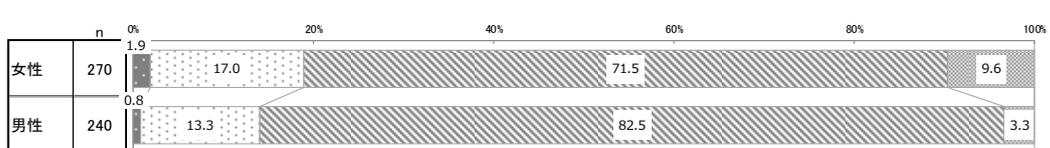
(4)武蔵野市男女共同参画フォーラム



(5)男女平等推進情報誌「まなこ」



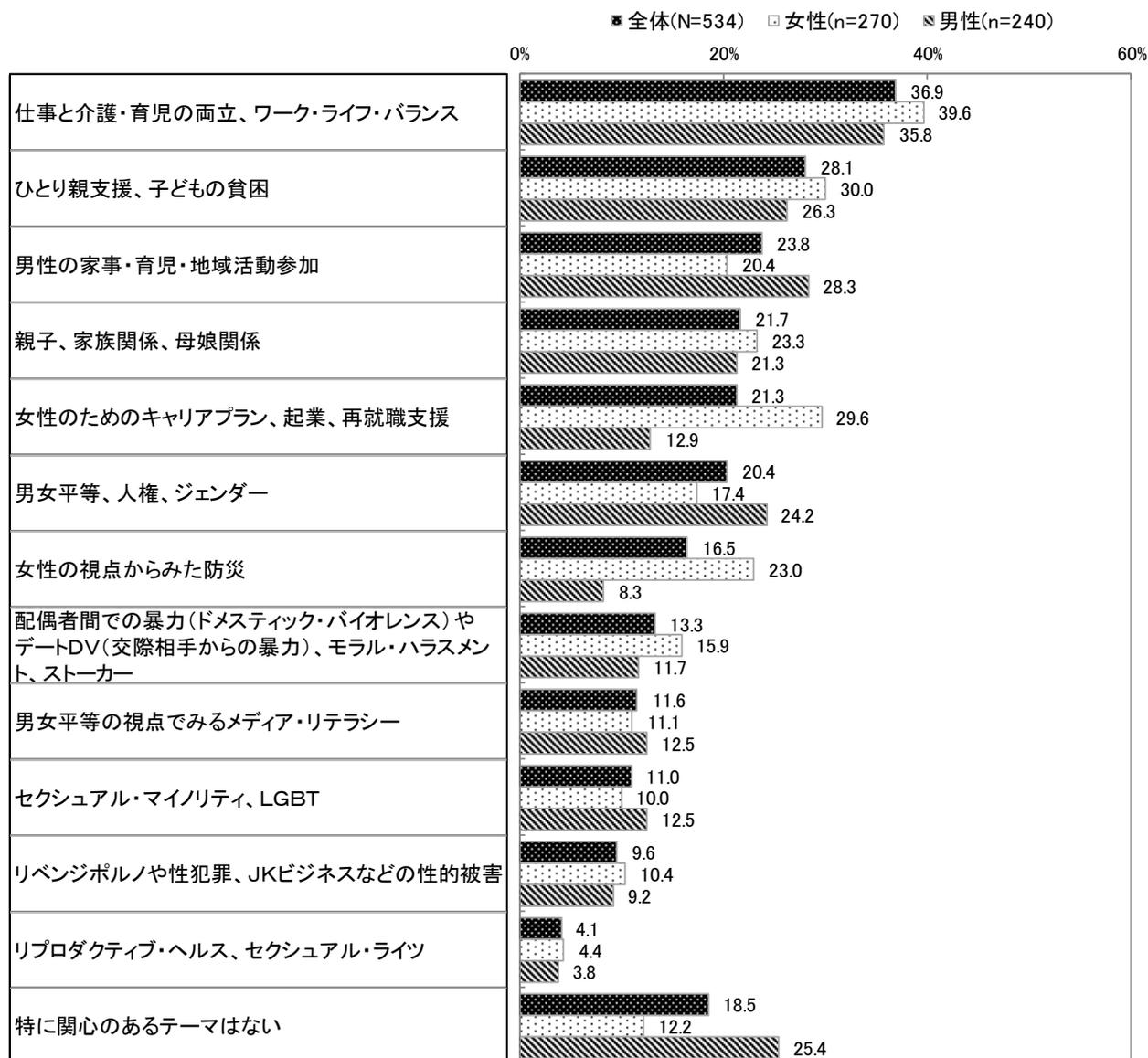
(6)女性総合相談



**問 23** 武蔵野市立男女平等推進センターでは、男女平等に関わる講座や男女平等推進情報誌『まなこ』の発行を行っています。あなたが講座や『まなこ』の特集記事として関心のあるテーマを教えてください。(〇はいくつでも)

最も高かったのは「ワーク・ライフ・バランス」の36.9%。ついで「ひとり親支援、子どもの貧困」、「男性の家事・育児・地域活動参加」。

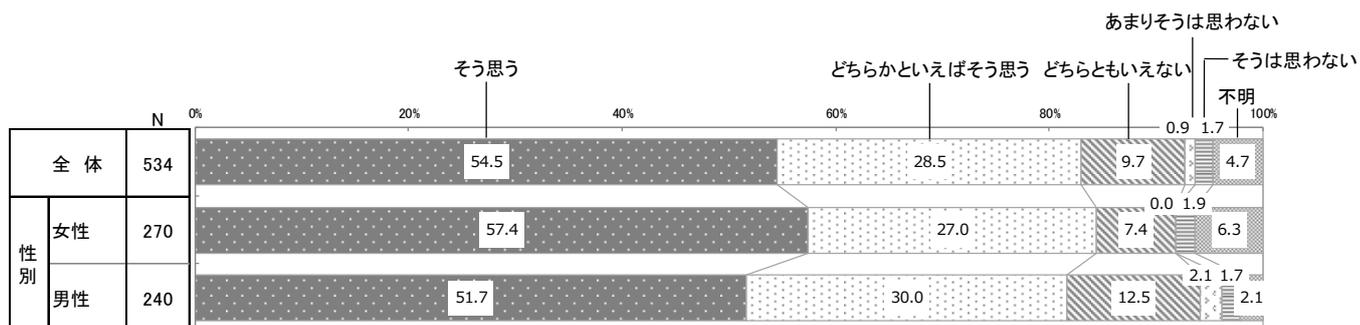
図表一問 23—① 男女平等に関わる講座や「まなこ」の特集記事として関心のあるテーマ（全体、性別）



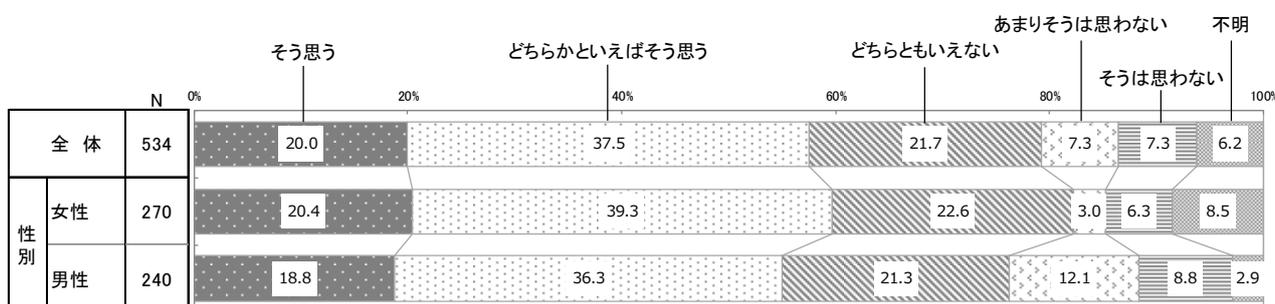
**問 24** 武蔵野市では、平成 29 年 3 月に、「男女平等の推進に関する条例」を制定しました。あなたはこの条例について、どのようにお考えですか。下記の項目それぞれについて、近いと思われるものに○をお付けください。(それぞれについて○は1つ)

「条例ができたことはよいことだ」についての回答は、「どちらかといえばそう思う」まで含めると 83.0%と圧倒的に多く、「関連のパンフレットを読みたい」も 50%を超える。一方、「関連のセミナー等への参加意向」は 18.3%に止まる。

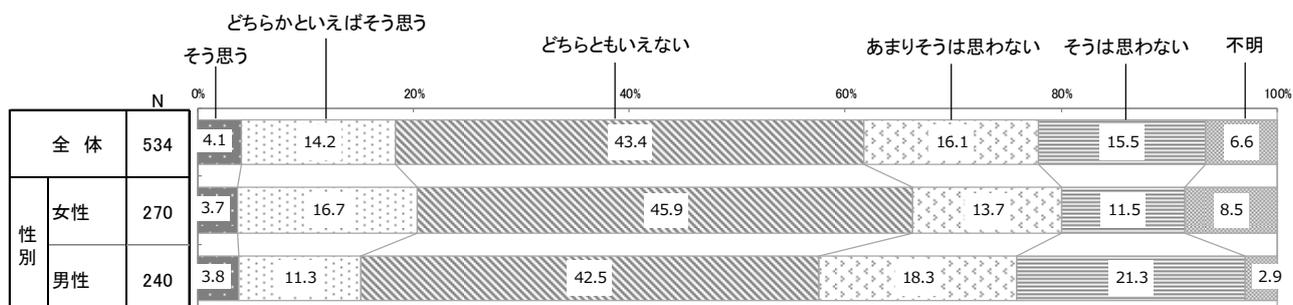
図表一問 24-① 武蔵野市に男女平等の条例ができたことはよいことだ(全体、性別)



図表一問 24-② パンフレットを読みたいか(全体、性別)



図表一問 24-③ セミナーなどの参加意向(全体、性別)

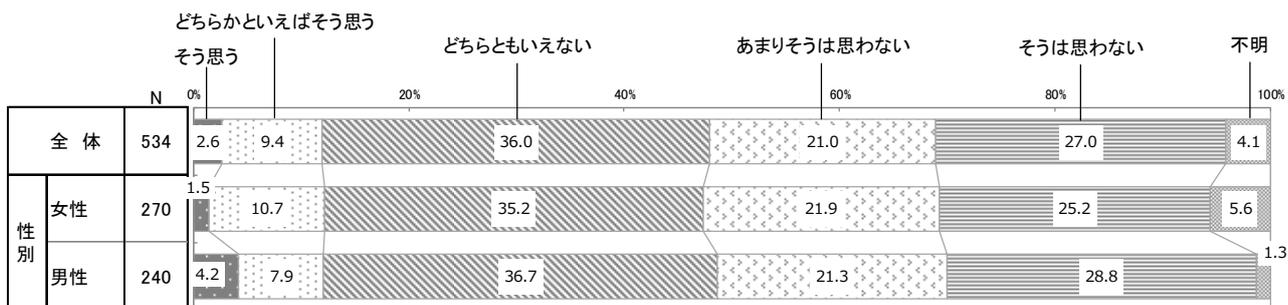


問 25

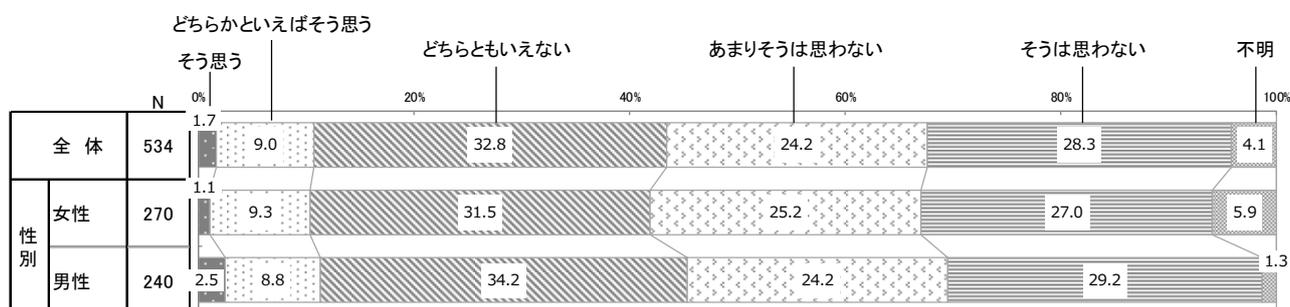
あなたは、男女平等推進についての学習や支援活動を行う団体に入ってみたり、また、市の男女平等に関わる事業に協力してみたりしたいと思いますか。（それぞれについて〇は1つ）

団体への参加意向は 12.0%、ボランティア実施意向は 10.7%に止まる。

図表一問 25—① 男女平等に関する団体への参加意向（全体、性別）



図表一問 25—② ボランティア委員などへの実施意向（全体、性別）



問 26

あなたは男女平等社会を実現するための武蔵野市の施策として、どのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

「保育・介護制度の充実」が、54.7%と半数以上の支持を獲得。ついで「学校教育」(38.2%)、「女性のキャリアアップ、起業、就業支援」(31.5%)が続く。

図表一問 26—① 男女平等社会を実現するために市の施策に望むこと(全体、性別)

